

2022（令和4）年度

事業報告書

学校法人 大阪歯科大学

はじめに

大阪歯科大学は、建学の精神である「博愛」と「公益」を基調とした100年を超える歩みの中で、歯科医学・医療の発展に寄与してきた。

2022（令和4）年度は、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、教育、研究、臨床の発展充実、経営の効率化を目指すとともに、「第1期中期計画」「第1期中期財政アクションプラン」（2020年度～2024年度）を推進し、建学の精神の一層の具現化を停滞させることなく各種事業に取り組んだ。

本学は、大学基準協会から大学評価（認証評価）の適合認定を受け、令和4年度も引き続き「私立大学等改革総合支援事業（タイプ1）」に採択され、「大阪歯科大学ガバナンス・コード」を作成し、各項目について適合状況を点検、その結果を公表した。そして、継続して「学修者本位の教育への転換」のための各種取り組みを行うとともに、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」にあるSDGs、Society5.0、地方創生及び地域連携を盛り込み、教員力の向上を図った。

歯学部では、初年次教育の充実、オナーズ教育への注力、共用試験、臨床実習、歯科医師国家試験の成績向上に取り組んだ。学生の受け入れでは、前年度に引き続き、高校訪問が十分実施できない状況にもかかわらず、安定した入学志願者数により定員を充足した。大学院歯学研究科では、一般、社会人、外国人留学生の各区分で入学者を募集するとともに、大学院生の研究活動の活性化を図った。

医療保健学部では、歯科衛生士、歯科技工士両国家試験で第1期生以来、3年連続合格率100%を達成し、また、卒業生の就職決定率についても同様に100%であった。

大学院医療保健学研究科では、修士（口腔科学）の学位取得者は4名で、また博士（口腔科学）の学位取得者は5名であった。

附属病院では、理事会傘下の附属病院組織改革委員会の検討を踏まえ、医療の質向上と経営効率化に成果を上げ収支が大幅に改善した。

「医療イノベーション研究推進機構」（Translational Research Institute for Medical Innovation：TRIMI）では、「研究実験センター」「先進医療研究センター」「事業化研究推進センター」を擁し、積極的に特色ある研究の推進に取り組み、2月には三条市立大学と＜歯科医療製品の研究開発に係る包括連携協定＞を締結した。

大阪歯科大学歯科衛生士研修センターでは、歯科衛生士のリカレント教育の拠点として開設5年目の研修が無事終了した。

看護学部（仮称）の設置に関しては、2024年4月開設に向けて設置認可申請を行い、看護学部（仮称）の基本棟となる「楠葉新学舎（仮称）」の建設が着々と進行している。

以上、今後とも教育・研究・臨床等の一層の充実発展を目指していくものである。

第 1 部 事業の概要及び附属資料 ----- 3

第 2 部 財務状況の概要 ----- 5 3

第 1 部 事業の概要及び附属資料

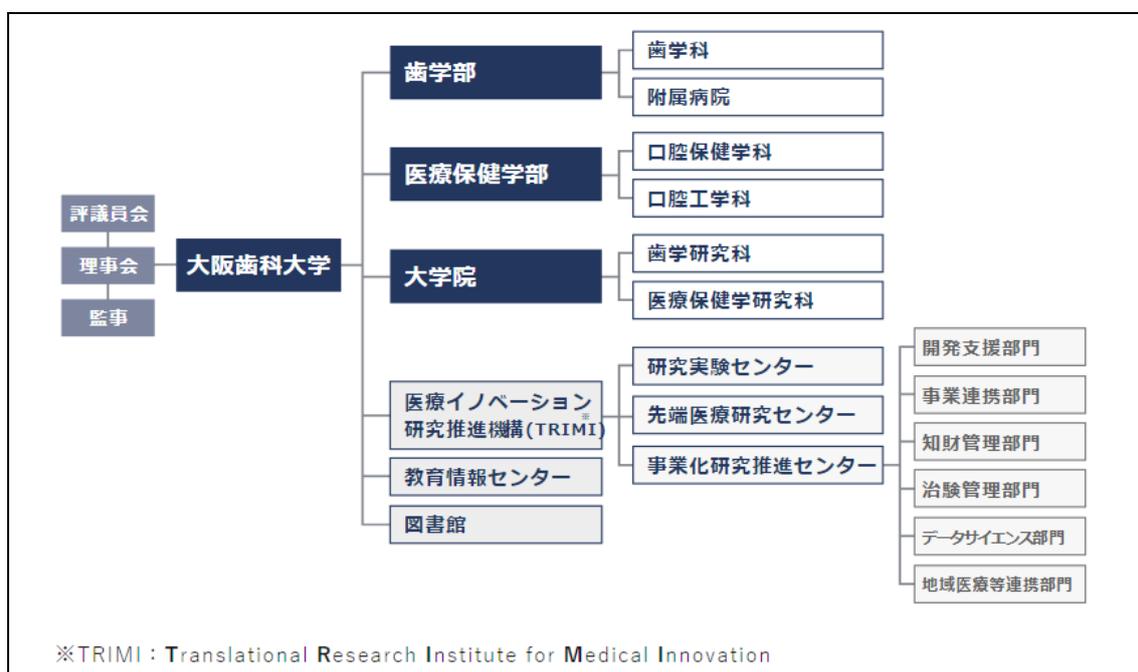
建学の精神

歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕の人生観を体得して、「博愛」と「公益」に努める。

沿革

1911（明治44）年12月12日	大阪歯科医学校設立
1912（明治45）年1月14日	大阪歯科医学校開校式 （創立記念日）
1917（大正6）年9月7日	財団法人大阪歯科医学専門学校設立
1917（大正6）年9月25日	大阪歯科医学専門学校開校
1947（昭和22）年6月18日	大学令に基づく旧制大阪歯科大学設立 （大学昇格記念日）
1951（昭和26）年3月2日	私立学校法に基づく学校法人大阪歯科大学へ組織変更認可
1952（昭和27）年2月20日	学校教育法に基づく新制大阪歯科大学設置認可
1961（昭和36）年3月31日	大阪歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）設置認可
1964（昭和39）年4月17日	大阪歯科大学附属歯科技工士養成所（大阪歯科大学歯科技工士専門学校）開設
1968（昭和43）年5月1日	大阪歯科大学附属歯科衛生士学校（大阪歯科大学歯科衛生士専門学校）開設
1997（平成9）年4月1日	楠葉学舎、天満橋学舎附属病院竣工、牧野学舎（体育・課外活動施設）と合わせて3学舎体制となる。
2011（平成23）年11月11日	創立100周年記念式典挙行
2016（平成28）年8月31日	大阪歯科大学医療保健学部（口腔保健学科、口腔工学科）設置認可
2017（平成29）年8月29日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）設置認可
2018（平成30）年3月31日	大阪歯科大学歯科技工士専門学校廃止
2019（平成31）年3月31日	大阪歯科大学歯科衛生士専門学校廃止
2019（令和元）年11月19日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）設置認可

学校法人大阪歯科大学組織図（2022年度）



学校法人名称及び所在地

学校法人大阪歯科大学

大阪府大阪市中央区大手前1丁目5番17号

大学・学部等名称及び所在地

大阪歯科大学歯学部

（楠葉学舎）

大阪歯科大学大学院歯学研究科

枚方市楠葉花園町8番1号

大阪歯科大学医療保健学部

（牧野学舎）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科

枚方市牧野本町1丁目4番4号

大阪歯科大学附属病院

（天満橋学舎）

大阪府大阪市中央区大手前1丁目5番17号

役員・評議員(2023年3月31日現在)

[順不同、敬称略]

【役員】理事：定数7名以上11名以内 現員10名

監事：定数2名 現員2名

	氏名	現職・主な職歴・就任年等
理事長	川添 堯彬	大阪歯科大学学長(2007.10)
常務理事	下村 錢三郎	学校法人大阪歯科大学理事・評議員(2010.4)
常務理事	田中 昭男	大阪歯科大学副学長・歯学部長(2007.10)
理事	今井 弘一	大阪歯科大学副学長・医療保健学部長(2021.4)
理事	山本 一世	大阪歯科大学教務部長(2022.4)
理事	三宅 達郎	大阪歯科大学教授・国際交流部長(2022.4)
理事	上田 雅俊	学校法人大阪歯科大学評議員(2014.5) 学校法人大阪歯科大学理事(2018.4)
理事	中嶋 正博	大阪歯科大学附属病院長(2022.4)
理事	諏訪 文彦	大阪歯科大学名誉教授(2022.4)
理事	古川 壽男	歯科医師(2022.4)
監事	本井 文夫	弁護士(2014.4)
監事	生駒 等	歯科医師・大阪歯科大学同窓会長(2018.4)

【評議員】定数30名以上40名以内 現員39名

○選任区分 氏名

○本法人理事会理事互選(2名)

川添 堯彬(理事長)、中嶋 正博(理事)

○本学教授会推薦(歯学部教授12名)

池尾 隆、松本 尚之、藤原 眞一、梅田 誠、辻林 徹
前田 博史、馬場 俊輔、百田 義弘、高橋 一也、富永 和也
沖永 敏則、野崎 中成

○本学同窓会推薦(本学卒業生・歯科医師15名)

岡田 太郎、岡本 学、澤田 隆、芦田 欣一、安宅 公男
和手 甚京、城村 幸治、酒井 昭則、恩田 信雄、加藤 信次
橋本 成人、吉光 博史、大塚 俊裕、徳富 敏信、大松 高

○本法人理事会推薦(10名)

下村 錢三郎、鈴木 實、北條 博一、松本 圭右、上田 雅俊
末瀬 一彦、和唐 雅博、柿本 和俊、吉本 一馬、雄西 智恵美

教職員数（2023年3月1日現在）

専任教員数	202	名
専任職員数	182	名
専任教職員数合計	384	名

学生の状況（2022年5月1日現在）

（名）

設置学部等	修業年限	入学定員	入学者数			収容定員	在籍者数
			男子	女子	合計		
歯学部 歯学科	6	160	60	68	128	960	807
医療保健学部 口腔保健学科 口腔工学科	4	100	7	75	82	400	378
		70	0	62	62	280	283
		30	7	13	20	120	95
大学院 歯学研究科 博士課程	4	30	21	17	38	120	158
大学院医療保健 学研究科口腔科 学専攻（修士課程）	2	10	2	6	8	20	14
大学院医療保健 学研究科口腔科 学専攻 博士課程（後期）	3	3	1	6	7	9	25
合計		303	91	172	263	1,509	1,382

I. 大阪歯科大学

大学全体での取り組み

- 大阪歯科大学は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的としている。この目的達成のため教育・研究・臨床の発展を図った。
- 歯学部の第1学年から第4学年までと大学院歯学研究科は、大阪府枚方市の楠葉学舎にて、また、医療保健学部・大学院医療保健学研究科は、枚方市の牧野学舎にて教育研究活動を行っている。さらに、歯学部の第5・6学年の教育活動及び附属病院での診療活動は、大阪府中央区の天満橋学舎にて行っている。
- 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症への対応については、学長を中心に両学部関係役職者が随時協議し、文部科学省・厚生労働省・関係自治体の措置を踏まえ、連携して感染防止対策に取り組んだ。講義（演習）については、ソーシャルディスタンスを維持しながら面接授業をできるだけ多く受講させるため、各学年の学生を2つの班に分け、登学して面接授業を受講する班とその授業の録画動画を自宅で視聴する班とを1週間ごとに入れ替えるハイブリット型を実施した。また、実習（大学院の実験を含む）や附属病院での臨床実習は、感染対策を講じて面接授業を実施した。クラブ活動については、練習時間の短縮、飲食の禁止及び対外試合の禁止などの条件下で再開し、大学祭についても模擬店等の感染リスクの高いイベントは中止としたが、SNSを活用した軽音楽部ライブを配信し、オンラインでビンゴゲームを実施するなど盛り上がりを見せた。なお、学生の要望が多かった自習室は、グループ学習用の自習室は使用禁止としたが、個別ブース型自習室及び大講義室は図書館の開館時間と合わせながら試験前限定で開放した。
- 大学・大学院全体の教学マネジメント（内部質保証推進）組織としての「大学協議会」と、法人委員会である「自己点検・評価委員会」とが連携し、自己点検評価活動に取り組み、2021年度には、大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審し、「大学基準に適合している。」との認定を受け、改善課題の解決に取り組んでいる。
- 本学全体の「3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）」と、文部科学省中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針」を基に「大阪歯科大学アセスメント・プラン」「歯学部アセスメント・プラン」「医療保健学部アセスメント・プラン」を定め、人材の育成に取り組んだ。
- 5つの方針（「教育研究組織の設置方針」「学生支援の方針」「教育研究環境の整備の方針」「社会連携・社会貢献の方針」「管理運営の方針」）を基に大学の質の向上を図った。
- 多様な教育体制の展開のため、大阪歯科大学学部等横断カリキュラム検討委員会において、本学の全学的な視点や分野・学部等を超えた横断的な視点からのカリキュラム編

成を推進した。その結果、「ODU 歯科医療連携プログラム 数理・データサイエンス・AI 領域」が、文部科学省「令和3年度数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定され、特色ある教育の一層の充実を図った。

- ・ 本学の特色ある取り組みとして、CST（カダバーサージカルトレーニング=医師・歯科医師による献体を用いた手術手技の研修）を2022年9月（2回）、10月（2回）に開催し、その普及に貢献した。
- ・ 「第1期中期計画」にその全学的な行動目標を定め、建学の精神を基調とする使命感を持った人材育成に努めた。さらに、「第1期中期財政アクションプラン」の進捗状況を注視し、財政の強靱化を図った。
- ・ 看護学部（仮称）設置関係については、2024年4月開設に向けて学部設置認可申請を行い、鋭意取り組んでいる段階である。同学部の基本棟となる「楠葉新学舎（仮称）」の建設が着々と進行している。

II. 歯学部・歯学研究科

歯学部の教育方針

本学の教育方針は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針とに則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。したがって、本学の学生は歯科医師たる適性の素質を持ち、本学の教育方針に沿い得るものでなければならない。歯科医師として必要な適性とは、次の三つに要約される。

- 一、能力的な適性 歯科医学の学理と技術を理解し応用できる知能、学力、技能
- 一、人格的な適性 歯科医師としての使命感、社会観、世界観、態度、意志など幅広い人間性
- 一、身体的な適性 歯科医師としての職務を遂行しうる体力と活動力

以上の、三つの適性はいずれに優劣があるものではなく、どれひとつとして欠かすことのできないものである。本学では6年間の一貫教育を通じて、学生のそれぞれの個性を尊重しながら、以上の適性を涵養、発展させ、人間性豊かな歯科医師を養成することを教育の目標としている。

ディプロマ・ポリシー

豊かな人間性を支える基盤的能力及び歯科医師としての専門的能力を有機的に備え、新時代の歯科医療に積極的に対応できる人材を輩出する。

- ・ 基礎医学及び歯科医学の体系的な知識を有し、これを礎として実社会に還元できる能力を身に付けている。

- ・種々の情報を自ら収集・分析する科学的探究心を涵養し、自ら問題を発見し、解決できる能力を有している。
- ・汎用能力及び危機管理能力を持ち、絶えず研鑽を積む習慣を持っている。
- ・海外研修などを通じて、国際人としての素養を磨きグローバルに活躍できる実力を身に付けている。
- ・歯科医療を適切かつ確実に行う技能を身に付けている。
- ・新時代の歯科医療に積極的に取り組み、患者中心の医療並びに人々の求める歯科医療を理解し、チーム医療を主体的に実践できる能力を身に付けている。
- ・価値観の多様性に対応できる幅広い視野と判断力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

「博愛と公益」の精神のもと、「歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献する」という教育方針に基づき、専門的な「知識・技能」、総合的な「人間力・チームワーク」を備えた歯科医学・歯科医療を担う人材を養成する。

修得概要

- ・6年間一貫教育の中で歯科医師として必要な知識、技能及び態度を修得する。
- ・入学時の初年次教育及び早期臨床体験学習から、臨床実習に至る一貫した履修の中で歯科医療人として必要な態度を修得する。
- ・歯科英語の修得及び海外研修活動を通して、国際医療人としての素養を身につける。
- ・研究マインドの養成のために研究チャレンジに取り組む。
- ・学生が意欲を持って学習でき、4年次のコアカリ講義・実習、臨床実習による歯科専門教育を通して、歯科医師として自ら考え、実践する能力及び6年次の統括教育を通じて、歯科医学教育における総合的な知識を修得し、国家試験に合格する能力を身に付ける。
- ・診療参加型臨床実習を通じて歯科医師として必要な知識、技能、態度を修得する。
- ・患者さんへの思いやり及び社会的責任を果たすことができる倫理観を修得する。

教育方法

- ・シラバスに沿った講義と実習。
- ・知識及び技能の獲得のために開発した教材の利用。
- ・アクティブラーニングのためのグループ学習。
- ・学習支援のための小グループ講義。
- ・社会と患者との関わりを認識するための体験学習及び臨床実習。

学習成果の評価

- ・ シラバスに示す各科目試験及び総括試験。
 - ・ 臨床実習前に行う歯学系共用試験。
 - ・ 臨床実習時の臨床知識試験・歯学系臨床能力試験。
 - ・ 臨床実習終了後の学士試験。
- 以上の各試験によって評価し、進級及び卒業の判定を行う。

歯学部教育改革

歯学部においては、教学支援体制の充実を図り、建学の精神である「博愛」と「公益」に適う歯科医療人育成を目指し、様々な取り組みを行った。

1. 歯学部における特色ある教育の展開

歯学部では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定め、建学の精神の具現化に努めた。2020年6月以降、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、感染症対策（登学時の検温記録、手指消毒等）を徹底し、第1、3、4、6年次の学生は、対面授業とオンライン授業の両方を開講するハイブリット型授業を、2年次は全てオンライン授業（実習を除く）を、第5学年は臨床実習があるため対面授業を受けている。以下に示す教育の展開は、すべて上記の方式で行われた。

1年次の「態度教育・コミュニケーションⅠ」は、「履修指導」「ホームルーム」等の受講を通じて自学自修や社会人としての健全な生活態度の涵養を目指している。コロナ禍のため、従来の「社会福祉施設体験学習」はカリキュラムから廃止したが、「早期臨床体験学習」はコロナ禍前の内容に戻し、本学附属病院で医療現場を体験した。「現代教養」（3単位）では、マナー指導、学習態度の確立、プレゼンテーション能力などを通して、歯科医師として必要な素養と思考力、判断力、表現力など様々な状況に臨機応変に対応、解決できる能力を養うことを目的とし、PROGテストを通じて問題解決力、言語処理能力などについて、学生自身が自己分析を行った。

情報リテラシー教育は、「情報科学」（2単位）を必修としており、その中でパソコンのスキルとともに情報化社会に特有の危険性とその対処法を学んだ。

2年次の「態度教育・コミュニケーションⅡ」は、ホームルーム、実験動物慰霊祭を通じて、医療従事者としてふさわしい態度、意識を身につけることを目的としている。また、「問題解決基盤」（1単位）は、アクティブ・ラーニング科目の一つであり、与えられた課題について調査・研究し、グループ発表や討議を行うものである。

3年次の「ゼミナール」（2単位）、「研究チャレンジ」（2単位）は、演習科目として学生を研究室に配属して行うものである。特に「研究チャレンジ」は、研究マインドを学生に涵養することを目的としており、リサーチリテラシーを涵養し、SCRIP（スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム）もしくは学生が参加している専門学術大会での成果発表に向けて取り組んだ。なお、2022年度は、第5学年1名がSCRIP日本大会にて準優勝の栄誉を手にした。

第4学年次では、医療系大学間共用試験歯学系CBT、OSCEを臨床実習へ至る前の重要な試験として、指導体制の強化を行い成績の向上を図った。特に成績下位者には合宿形式の重点的学習を行い弱点の強化を行った。「臨床系歯科医学教育」「総合医学系教育」「歯科医学統合講義」を実施し、臨床実習に向けての関連科目を習得した。なお、DESSモバイルは、第4、5、6学年への自学自習のツールとして活用している。

第5学年においては、コロナ禍で感染予防策を徹底するとともに、臨床実習必携を整え学生に配付し、学修の徹底を図った。患者中心型診療システム（POS: Patient Oriented System）に基づいて検査、診断、治療計画にいたる情報収集と基本的歯科診療技術の訓練を行った。2019年4月に制定されたスチューデントデンティスト認定制度に、第5学年全員が認定を受け、各自に「Student Dentist 認定証」を交付し、臨床実習時には携行することとなった。診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CCPX）については、順調に試験が実施された。

本学のオナーズ教育の一環としての「グローバル活躍プログラム」を実施した。これは、近年要求される英語での論文発表や、短期海外研修、SCRIPへのエントリーなどグローバルに活躍できる人材の育成を目指し、英会話能力向上のため英会話業者のレッスン料をサポートするもので、2022年度は16名が取り組んだ（2021年度は24名）。

第6学年においては、国家試験に対応するための「総括講義」と「特別講義」や学士試験と本学指定の模擬試験により、成績の向上に努め、きめ細かな指導（特別アドバイザーによる弱点の克服方法のフィードバック及びティーチング・アシスタント（TA）による学修補助等）を行った結果、第116回歯科医師国家試験の合格率は、新卒者が79.0%となり全国平均を超えた。なお、本学既卒者についても従来から丁寧な指導を行っている。

<新卒者合格率>

[区分]	[受験者数/合格者数]	[合格率全国平均]
2023（令和5）年3月 第116回	79.0%（81人/64人）	77.3%
2022（令和4）年3月 第115回	82.9%（70人/58人）	77.1%
2021（令和3）年3月 第114回	92.0%（87人/80人）	80.2%
2020（令和2）年3月 第113回	85.3%（68人/58人）	79.3%
2019（平成31）年3月 第112回	80.4%（97人/78人）	79.4%

2. IR（インスティテューショナル・リサーチ）室の活動

学修成果を可視化するためホームページにIR情報を掲載した。その項目は、次のとおりである。

[2022年度実施分]

【全学】2021年度学生による授業評価結果（2022/9/22）

【歯学部】2021年度学習実態調査（第1～4学年）（2022/9/22）

【歯学部】2021年度卒業生成長実感調査（2022/9/22）

【医療保健学部】2021年度卒業生成長実感調査（2022/9/22）

【歯学部】 歯科医師国家試験合格実績（2022/9/22）

I R職員2名を配置し、上記の分析を行った。「ODU歯科医療連携プログラム 数理・データサイエンス・AI領域」については、動画教材を本学教員の協力のもと作成した。また、歯学部の2021年度卒業生にコンピテンシーテスト、2022年度新入生にPROGテストを実施し、問題解決力、言語処理能力などについて、他大学学生の傾向との比較分析を行った。

3. カリキュラム2022のスタート

歯学系CBT、歯科医師国家試験の難化に伴う対応として、2022年度第1学年から新カリキュラムでの時間割がスタートした。主な変更点として、旧カリキュラムでは第2学年科目であった口腔解剖学や組織学を第1学年に移行した。

4. 教育環境の整備

本学では、「教育研究環境の整備の方針」を制定し、その中で「学生の学びについて、多様な授業形態に対応できる環境を整備する。」としている。

歯学部では、文部科学省令和4年度補正予算「医学部等教育・働き方改革支援事業」に選定された。この交付金を活かし、歯学系共用試験OSCEに使用する機器を購入し公的化に備える。

5. 入学志願者増加への取り組み

アドミッション・ポリシー

私たちは、先輩が弛まぬ努力で築いた礎を守りながら、建学の精神に基づき、新時代の歯科医療を担い、人々の口腔の健康を守る能力及び適性を十分に有する人材を求めている。

- ・ 歯科医学を学ぶために十分な基礎学力を有する人。
- ・ 医療人として社会に奉仕し貢献する使命感と気概を持つ人。
- ・ 科学的な探究心を持って考え、自ら努力する人。
- ・ コミュニケーション能力を有し、協調性のある人。
- ・ 専門的知識、技能、態度を修得して、国家資格の合格に向けて着実に努力する人。
- ・ グローバルな視野に立って歯科医学の発展と歯科医療を担う熱意のある人。
- ・ 歯科医師としての倫理観、世界観などを備える幅広い豊かな人間力と行動力を持っている人。

歯学部は、アドミッション・ポリシーのもと、優秀な学生の確保に取り組んだ。アドミッションセンターは、センター長1名と事務職員3名で構成されている。

新型コロナウイルス感染症の流行の中にあっただが、来場型のオープンキャンパスを7月23日に楠葉学舎で、8月13日に天満橋学舎で開催し、合計321名（楠葉226名+

天満橋95名)が参加した。さらに、オンライン型のオープンキャンパスプログラムとして、有名予備校講師の入試対策講座を7月23日から10月31日までの間に配信し、総視聴回数は、719回(英語239回、数学200回、物理113回、化学72回、生物95回)であった。

入学者選抜については、学校推薦型選抜(公募)を昨年までの専願制から併願制に変更したほか、「追試験日」の設定、「面接免除制度」、取得時期不問の「英語民間試験利用方式」、インターネット出願を継続し受験生の出願促進に対策を実施した。

そして、受験に際しては、①受験にともなう遵守事項(検温、マスク着用、感染予防対策等)と、②試験当日における対応(入構者の検温、消毒用アルコール設置、試験室の換気対策など)をホームページ上に掲載した。

学校推薦型選抜・一般選抜において、英語の各種資格・検定試験(注)の結果に基づいて、一定の基準を満たしている場合は、「外国語(英語)」の受験免除制度を昨年度に引き続き実施した。

(注) 英語の各種資格・検定試験について

英語資格・検定試験	20点を加算	30点を加算
英検®(CBT/S-CBT含む)	2級	準1級以上
Cambridge English	140以上	160以上
GTEC	1070以上	1190以上
TOEIC®(L&Rのみ)	550以上	700以上
TOEIC®(L&R+S&Wの合計)	790以上	1095以上
TOEFL iBT®	55以上	72以上
TEAP(4技能)	225以上	309以上
TEAP CBT(4技能)	420以上	600以上

・GTECはオフィシャルスコア(検定受験の成績)のみを認める。・TOEIC ITPテスト、TOEIC L&R IPテスト・TOEIC S&W IPテストは対象とはならない。・TOEFL iBT®はMyBest™スコアも認める。・いずれも取得時期は問わない。

試験場は、大阪会場のほか、一般選抜(前期)において、東京会場、名古屋会場、広島会場、福岡会場を設置した。一般選抜(後期)は、東京会場、福岡会場を開設した。

入学試験成績優秀者特待生制度については、その充実を図り、優秀な学生の確保に努めた。一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜においての措置で、概要は以下のとおりである。

[A種(初年度学納金(入学金を除く)免除)]

免除額:515万円、2年次以降は授業料全額免除:380万円×5年、対象人数1名、2年次以降は優秀な成績を維持することを条件)

[B種(初年度は学納金(入学金を除く)免除)]

免除額:515万円、対象人数15名(2年次以降は在学中の学業成績優秀者に対し年間授業料から100万円免除)

2022年度入学者選抜時に比べ18歳人口が2万人減少したことに加え、新型コロナウイルス感染症の流行拡大が懸念もあったが、本学への志願者数は前年に比べ18%減少したものの、募集人員である128名を充足した。これまでの本学の地道な入試広報活動が実を結んだ結果であると考えられる。

転入学・編入学試験では、前期・後期合わせ4名が合格し第2学年へ編入となった。

6. 学生支援体制

各学年の指導教授、助言教員、特別アドバイザー、教育アドバイザー、大学院生のTAにより日々指導が行われている。「学生カルテ」を活用するとともに、学生には「学習ポートフォリオ」の作成を通じて自己成長を確認させ、適切な助言を行った。特に「育み教育」「寄り添い教育」による支援が必要な学生については、徹底した個人指導を行った。

学生部委員会では、『学生生活ハンドブック』を作成してポートフォリオに掲載し、ホームルームの際にその活用を促した。

各学年について、教員が楠葉学舎及び天満橋学舎の研究室に在室し、学生の質問や相談に応じるオフィスアワーを設けた。

高等教育の修学支援新制度について、文部科学省に機関要件確認申請を行い、対象機関として認定を受けた。歯学部では15名が授業料等減免学生となった。

健康管理については、「医務室」に平日は看護師が、また、毎週火・金曜日は医師（非常勤）が在室し学生・教職員への対応を行った。また、楠葉学舎と天満橋学舎の「学生相談室」に専門の臨床心理士（非常勤）を置き、学生の抱える問題に対応した。なお、楠葉学舎では適宜電話相談を行った。

定期的に学生部長、学年指導教授、助言教員又は特別アドバイザー、教務学生課職員、臨床心理士及び看護師により、相談内容について共有を図り、解決に向けての協議を行った。

大学院歯学研究科の取り組み

大阪歯科大学大学院歯学研究科は、大学院生に歯学・口腔科学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的としている。

そして、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。

○ディプロマ・ポリシー

歯学研究科に必要な年限在学して所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した次の者に博士（歯学）の学位を授与する。

- ・ 口腔科学研究を担う高度の専門知識と技術を修得して発展できる。
- ・ 口腔科学に根ざした高度の医療技術を修得して応用できる。
- ・ 研究者あるいは医療人として高い教養を身に付けて展開できる。
- ・ 国際社会で医療人として貢献できる。

○カリキュラム・ポリシー

歯学研究の目的である口腔科学の進歩に貢献し得る研究者を養成するために、各専攻科で履修する講義、実習及び学位論文の作成に関する充実したカリキュラムを策定している。

主科目に関しては研究成果に基づき評価し、有為な人材育成を図っている。

- ・生命科学の基盤の上に歯学並びに関連諸分野に関する深い洞察力と専門的知識の修得に加えて、課題探求能力を備えた研究者並びに高度な知識と技術を有する専門職業人養成のための教育を行う。
- ・自立して研究を行うために必要な英語、研究倫理、研究手法などの実践的教育を行う。
- ・先進的な口腔科学に関する研究を遂行できる能力を確立する。
- ・全身との関わりの中で口腔科学研究を遂行できる医療人を育成する。
- ・高い教養と学際的視点を涵養し、国際社会に貢献できる研究能力を獲得する。

○アドミッション・ポリシー

建学の精神である「博愛と公益」の精神を享受し、次世代の研究者・教育者としての基礎知識を有し、歯科医学の知のフロンティアを自ら率先して開拓する強い意欲を有する人を求める。

- ・口腔科学に探究心をもつ人。
- ・高い倫理観とコミュニケーション能力を備えている人。
- ・幅広い視野をもち、創造性とチャレンジ精神に富む人。
- ・自ら問題を発見し、解決する力を備えている人。
- ・グローバルな視野と語学力を身に付け、国際貢献を目指す人。

1. 海外学会発表助成及び学術研究奨励助成金について

大学院生の海外学会発表助成は1件であり、大学院生の研究10件に対して、学術研究奨励助成金として総額で250万円の助成を行った。

2. ティーチング・アシスタント、ポスト・ドクトラルフェロー採用について

ティーチング・アシスタントは、学部学生に対する教育補助として13名を採用し、資質向上を図るための研修を2022年7月に実施した。また、ポスト・ドクトラルフェローは、専門的研究に従事するものであり、2名を採用した。

3. 大学院生の入学者増加策等

2023年度入試(2022年度実施)は、定員30名の中、42名の入学者であった。このうち、外国人留学生入学者の9名をはじめ社会人特別選抜での入学者は5名であった。

4. 大学院FDについて

2022年8月9日（火）午後5時から、「実験ノート作成指導におけるポイント」をテーマに、本田義知・本学教授を講師に実施した。

Ⅲ. 医療保健学部・医療保健学研究科

1. 医療保健学部設置の趣旨

大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科・口腔工学科は、超高齢社会が必要とする優れた歯科医療人を養成し、口腔の健康を通じて国民が健康で安心して暮らせる社会づくりに貢献することを設置の趣旨としている。

2. 学修への取り組み

医療保健学部では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定め、様々な課題解決のため精力的に取り組んだ。

医療保健学部のディプロマ・ポリシー

専門技能に加えて、「博愛」の精神を以て患者が抱える問題を解決するとともに、自らが得た知識や考案した技能を「公益」の精神を以て世に提案して社会に貢献できる人材を輩出する。

- ・医療に係わる専門職としての基本的な知識力、技能力、判断力、問題解決力を有している。
- ・自らの講義・実習で得た知識・技能・態度をもとに導き出せた内容を適切に提示できる能力を有している。
- ・口腔保健に関する知識、技能及び技術に対して、科学的探究心と向上心を有している。
- ・医療、福祉及び関連する制度に関する広い知識をもち、人々の口腔の健康に寄与できる。
- ・人と温かく接し、歯科医療を通じて社会に貢献する高い倫理観と人間性を持っている。

口腔保健学科のディプロマ・ポリシー

医療保健学部のディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力を身に付けた者に学位を授与する。

- ・口腔の健康を守る専門職としての十分な知識と技能を身に付けている。
- ・医療・福祉分野と多職種連携を図り、ケアプランを策定・実践できる医療専門職として、超高齢社会で主導的に活躍できる。
- ・口腔の健康に関する問題の抽出力と解決能力を有している。

口腔工学科のディプロマ・ポリシー

医療保健学部のディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力を身に付けた者に学位を授与する。

- ・口腔の健康に寄与できる専門職としての十分な知識と高い技能を身に付けている。
- ・医療・福祉分野と多職種連携を図り、知識と技能の提供と適切な提案ができる医療専門職として、超高齢社会で主導的に活躍できる。
- ・口腔工学の発展に寄与し、歯科医療を向上させる能力を有している。
- ・患者とのコミュニケーションを通じて、口腔内装置に関する問題の抽出と解決能力を有している。

医療保健学部のカリキュラム・ポリシー

幅広い知識や技能を修得し、博愛の心を持ち、柔軟に対応できる口腔保健学士及び口腔工学士を育成するために必要な教育を施し、歯科医学・歯科医療に携わる人材を輩出する。

口腔保健学科のカリキュラム・ポリシー

医療人としての幅広い教養とコミュニケーション能力を修得して問題解決能力と向上心を醸成し、さらに、超高齢社会に適応する歯科医療専門職として機能的口腔ケア、訪問歯科診療及び幅広い歯科医学知識を修得させ、キャリア教育、教養教育及び総合医学教育を行い、福祉や臨床歯科医学を探究する。

- ・早期臨床体験学習やボランティア活動、臨地・臨床実習を通して、建学の精神である「博愛」と「公益」の心を育成し、良識豊かな倫理観を持つ人間力を養成するとともに患者とのコミュニケーション能力を育成する。
- ・一般教養科目を配置し、社会人としての素養を身に付ける。
- ・基礎系口腔科学、社会系口腔科学、臨床系専門教育及び臨床教育によって歯科衛生士としての知識と技能並びに自主的に問題を抽出して解決する基本的能力を育成する。
- ・口腔工学科と合同の授業、医学及び福祉に関する科目を通して、医療コミュニケーションと多職種連携能力を養成し、医療人としての自覚を醸成する。
- ・「高齢者歯科学」、「口腔保健訪問実習」などの高齢者を対象とした科目を充実させるとともに機能的ケアにも重点を置き、超高齢社会に適応する人材を養成する。
- ・総括教育で自らテーマを決めて探究し、プレゼンテーションすることで、向上心と歯科医療を発展させる能力を養う。

口腔工学科のカリキュラム・ポリシー

医療人としての幅広い教養とコミュニケーション能力を習得し、超高齢社会

に適應する歯科医療専門職として必要な新たな歯科技工技術であるデジタル加工技術、さらにキャリア教育、教養教育及び総合医学教育、並びに従来あまり教育されなかった福祉、幅広い臨床歯科医学及びデジタル加工を学習する。

- ・「早期臨床体験学習」やボランティア活動、「医科歯科連携学実習」及び「口腔工学病院臨床実習」を通して、建学の精神である「博愛」と「公益」の心を育成し、良識豊かな倫理観を持つ人間力を養成するとともに患者とのコミュニケーション能力を養成する。
- ・一般教養科目を配置し、社会人としての素養を身に付ける。
- ・基礎系口腔科学、社会系口腔科学及び新しい技工技術を充実させた臨床系専門教育と臨床教育によって、歯科技工士としての知識と技能並びに自主的に問題を抽出して解決する基本的能力を育成する。
- ・口腔保健学科と合同の授業、医学及び福祉に関する科目を通して、医療コミュニケーションと多職種連携能力を養成し、医療人としての自覚を醸成する。
- ・高齢者歯科学、口腔工学訪問実習などの高齢者を対象とした科目を充実させ、超高齢社会に適應する人材を養成する。
- ・総括教育で自らテーマを決めて探究し、プレゼンテーションすることで、向上心と歯科医療を発展させる能力を養う。

1) 教育環境の整備

学部の特徴として、学生には入学時に一人1台のノートPCを貸与しており、学修支援ポータルサイト「A-portal」を使用し、学生への諸連絡や学生と教員間のコミュニケーションを行うとともに、学生自身が授業の出欠管理、課題提出、履修や成績管理を行うことのできる環境を整えている。

このシステムはクラウドサーバーを使用しており、インターネットに接続できる環境であればどこからでもアクセスでき、本学の教員だけでなく、学外の非常勤講師からも利便性が高く、学生と教員との円滑なコミュニケーションときめ細やかな学習サポート体制を実現している。

2) 臨床実習等

臨床実習と社会福祉士関連の実習については、新型コロナウイルス感染症の影響のために、実習先の病院や福祉施設の状況によって、実習の中止あるいは受け入れ人数の縮小を余儀なくされた。このために、学内施設において、これらの実習と同等の学修成果が得られるように配慮した実習を新たに編成して学修時間と成果を確保した。

3) 国家試験対策

第3期生の国家試験合格率100%の達成に向けて、国家試験対策講座を国家試験直前まで継続して実施した。さらに成績の振るわない学生を対象に、学習指導強

化を図るため、各学科において対象学生を選定し、担当教員は、学生との面談を踏まえ、具体的な学習計画を立案し個別指導を行った。

その結果、「第32回歯科衛生士国家試験」及び「令和4年度歯科技工士国家試験」において、3年連続で、合格率100%を達成した。

- ・ 第32回歯科衛生士国家試験
口腔保健学科68名が受験し、68名全員が合格。
- ・ 令和4年度歯科技工士国家試験
口腔工学科17名が受験し、17名全員が合格。
- ・ 第35回社会福祉士国家試験
11名（新卒6名・既卒5名）が受験し、5名（新卒5名）が合格。

3. 学生の受け入れ

医療保健学部が求める学生は、「思いやりの心を持ち、人と温かく接して協調性とコミュニケーション能力に優れ、医療と福祉に高い関心と学習意欲を持ち、社会に貢献できる医療人となるための絶え間ない学習と努力ができる者」とする。各学科においてのアドミッション・ポリシーは以下の通りである。

【口腔保健学科のアドミッション・ポリシー】

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、歯科医療の発展のために独創性がある発想を持つことが必要であり、口腔保健学科として次のような学生を求める。

- ・ 口腔保健学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
特に「英語」、「数学」、「国語」及び「生物」について高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人
- ・ 既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・ 他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・ 自己の健康管理ができる人
- ・ 人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人
- ・ 口腔の衛生管理に強い関心がある人

【口腔工学科のアドミッション・ポリシー】

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、口腔装置の製作技術に優れ発展させるためには科学技術への関心と開発への興味が必要であり、口腔工学科として次のような学生を求める。

- ・ 口腔工学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
特に「外国語(英語)」、「数学」、「国語」、「生物」、「物理」及び「化学」について、高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人

- ・ 既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・ 科学技術に関心がある人
- ・ 他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・ 自己の健康管理ができる人
- ・ 人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人

2022年は、感染防止対策を十分に講じた上で、従来の来場型オープンキャンパスを全6回実施し、またスタッフが個別にキャンパスを案内する個別見学型オープンキャンパスも実施した。

【2022年オープンキャンパス】

第1回	3月21日(月・祝)	牧野学舎	34名
第2回	5月15日(日)	牧野学舎	29名
第3回	6月19日(日)	牧野学舎	40名
第4回	7月31日(日)	牧野学舎	60名
第5回	8月10日(水)	天満橋学舎	13名(口腔工学科限定)
第6回	8月21日(日)	牧野学舎	42名
【個別見学型】2022年度		牧野学舎	40名

以上 6回の来場型オープンキャンパスと個別見学型オープンキャンパスの参加延べ人数(生徒のみ)は、258名であった。

その他、大阪府・京都府・兵庫県を中心に高等学校訪問、校内での入試ガイダンスを実施、近畿・中四国を中心に会場での進学相談会に参加し、進学情報ウェブサイトへの入試情報の掲載、広報チラシの近畿圏の延べ1000校を超える高等学校への送付など、積極的に広報活動を展開した。

【入学者選抜成績優秀者特待生制度】

- ・ 医療保健学部

授業料4年間免除

84万円×4年

4年間免除総額336万円、対象者3名

以上、入試広報活動の結果、医療保健学部の7期目の入学者数は、口腔保健学科80名、口腔工学科は27名(2年次編入学者1名を含む)となった。

4. 就職支援の取り組み

医療保健学部では、牧野学舎福利厚生棟1階にキャリアセンターを設置し、就職支援システムを活用した求人情報の提供、就職相談や面接指導など、学生の就職活動をサポートし、定期的にキャリアセミナー、就業体験事業、業界研究セミナーなども開催している。

第3期卒業生の進路について、口腔保健学科においては、歯科診療所と総合病院に大半が就職し、口腔工学科においては、歯科技工所、附属病院、歯科診療所、歯科関連企業など就職先は多岐にわたる結果となった。

第3期卒業生

【口腔保健学科】

求人数1,282人(18.6倍)(※1)
就職67名、本学大学院進学1名

・総合病院	41.0%
・歯科診療所	52.0%
・歯科系企業	2.0%
・本学附属病院	2.0%
・その他(進学含む)	3.0%

【口腔工学科】

求人数312人(18.4倍)(※1)
就職14名、その他(本学大学院進学など)3名

・歯科技工所	42.0%
・総合病院	9.0%
・歯科診療所	8.0%
・本学附属病院	17.0%
・歯科系企業	8.0%
・大学(教員)	8.0%
・その他	8.0%

(※1) 求人数は医療機関のみの数字

(※2) 本学大学院進学者のうち2名は本学教職員

5. 学部独自の取り組み

1) 社会連携活動

例年、枚方市保健センター「ウォーキングイベント」に学部学生及び教員がボランティアとして参加し、災害時の歯科グッズの備えや歯磨き・お口のケアの仕方などの資料配布や説明を行い、また夏期には、枚方市内の小学生を招いての「歯科大わくわくキッズセミナー@まきの」を開催するなど、社会連携に取り組んでいるが、2022年度は前年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

2) 2022年度生涯学習セミナー

医療保健学部生涯学習委員会では、「これからの歯科保健医療と医療人像を考える」という総合テーマのもと、学外の識者を講師に招きセミナーを開催してきた。

第8回となる生涯学習セミナーは、9月4日(日)に天満橋附属病院歯科衛生士研修センターにおいて、医療保健学部卒業生を対象とし「口腔内スキャナーのハンズオンセミナー」を開催した。

参加後アンケートの結果、口腔内スキャナーや最新機器の説明を受けとても新鮮で勉強になった、今回のセミナーを受けて使い方のコツを知ることができた、など好評であった。今後は、歯科衛生士、歯科技工士のダブルライセンス取得者の講演やマナー講座の開催を検討している。

6. 大学院医療保健学研究科

- ・口腔科学専攻(修士課程)

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）では、修了までに所定の単位を修得し、修士論文の審査及び試験に合格した者に修士（口腔科学）の学位を授与します。修得を必要とする能力は次のとおりです。

- 1. 医療保健学を発展させて人の健康に寄与する研究・開発ができる。
- 2. 医療保健学に関する先進の高度な専門的知識と技能を持つ。
- 3. 専門的知識と技能を教育できる。
- 4. 医療保健学に関する広い見識を持つ。
- 5. 国際的視野を持つ医療人として活躍できる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）では、学生をディプロマ・ポリシーの示すレベルに到達させるために、次のカリキュラム・ポリシーを設定しています。カリキュラム・ポリシーに基づいて必要な科目を配置し、教育課程を編成、実施します。そして、レポート、プレゼンテーション及び討議への参加に重点を置いて各科目の到達度を評価するとともに、修士論文を厳正に審査します。

- 1. 研究に関する基礎的な学修を通じて、研究の立案、計画及び実行能力を身に付ける。
- 2. 統計手法の学修を中心に、研究情報の集計・分析能力を身に付ける。
- 3. 論文作成やプレゼンテーション法を学修し、研究結果を提示する能力を身に付ける。
- 4. 研究実習によって、医療保健学を発展させる能力を養う。
- 5. 専門性の高い科目によって高度な専門的スキルと知識を涵養する。
- 6. 教育学に関する科目を設け、教育力を養成する。
- 7. 歯科衛生士と歯科技工士との合同の科目で広い視野を養う。
- 8. 英語科目と国際医療に関する科目によって、高い語学力と国際的視野を養う。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）が求める学生は、医療人としての倫理観を持ち、人の健康を口腔を通じて維持・向上させる意欲をもって研究や教育に取り組む努力ができる者です。また、歯科衛生士と歯科技工士の両方が交流して学修するため、それぞれの専門のみならず、広く医療保健学としての学術的探究心やコミュニケーション能力を持つことを求めます。

上記の考えから、アドミッション・ポリシーを定め、次のような学生を求めます。

- 1. 歯科衛生士又は歯科技工士の資格を持ち、本学大学院課程の履修に必要な学力を持つ者
- 2. 医療保健学への学術的探究心と発展に貢献する意欲を持つ者
- 3. 基本的な情報処理ができる者

- 04. 自ら問題を発見し、解決する力を備えている者
- 05. 高い倫理観とコミュニケーション能力を備えている者
- 06. 学士課程修了レベルの英語を修得している者

2017年8月29日付で文部科学大臣より設置認可を受けた。高度な専門的知識と技能を持つとともに歯科医療の変革に応じられる歯科医療人、並びに歯科衛生士や歯科技工士の専門性を生かした研究を通じて歯科医療の発展に貢献できる人材を養成して歯科医療の発展と人々の健康の増進に寄与することを目的としている。修業年限は2年、入学定員は10名である。教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定めて学生募集活動を行った結果、2023年度には7名が入学した。口腔科学専攻（修士課程）の教育課程は、基礎科目、専門科目、専門研究の3つの科目群にカリキュラムを分類するとともに7つの研究分野を設けて行われている。2023年3月の修士（口腔科学）の学位取得者数は4名であった。

・口腔科学専攻博士課程（後期）

2019年11月19日付で文部科学大臣より無事設置認可を受けた。歯科衛生士、歯科技工士に関係が深い口腔科学分野での研究能力を高めるとともに、研究指導者としての能力、併せて教育研究機関における管理能力を持つことを目標としている。修業年限は3年であり、2023年度入試では、入学定員同数の3名が入学した。教育課程は、共通科目、専門科目、研究科目の3つの科目群にカリキュラムを分類するとともに、3つの研究領域を設けて体系的に教育を行っている。2023年3月の博士（口腔科学）の学位取得者数は5名であった。

IV. 研究に関すること

1. 科学研究費の獲得に向けた取り組み

2023年度文部科学省科学研究費助成事業への申請及び採択件数の増加促進のための説明会は、新型コロナウイルス感染防止の観点から集合形式では行わず、全教員に関係資料をメールで配信し、各種問い合わせは随時対応した。

2. SDGs（持続可能な開発目標）関連の研究・教育の推進

本学は、楠葉学舎所在の枚方市の取り組みである「枚方市SDGs推進登録制度」に賛同し、2022年8月29日付で同市から認定を受けた（枚方市所在の大学としては初）。

前年度から引き続き、パンフレット『大阪歯科大学 SDGs推進に向けて わたしたちができることから』に掲載されている特色ある研究・教育を推進した。

3. 医療イノベーション研究推進機構（Translational Research Institute for Medical Innovation：TRIMI）

2021年11月1日付で、従前の中央歯学研究所を「研究実験センター」と改称し、新たに「先進医療研究センター」「事業化研究推進センター」を置き、以上、3センターを擁する「医療イノベーション研究推進機構」として活動を開始した（後掲）。

4. 知的財産関係

2022年度は、発明届の受付は2件、特許登録は1件であった。

5. 研究不正行為防止、公的研究費の管理について

本学は、研究に対する基本的な考え方として「大阪歯科大学における公正な科学研究の推進について」をホームページに掲載している。

研究不正行為防止に関しては文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」に基づき、毎年度チェックリストを、歯学部主任教授会及び医療保健学部教授会において確認後、同省に提出している。

公的研究費管理については、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づき、毎年度チェックリストを、歯学部主任教授会及び医療保健学部教授会において確認後、監事の確認を経て同省へ提出している。

コンプライアンス教育として2022年12月から2023年1月にかけて本学教員、大学院生、科学研究費応募資格ありでe-Radに登録の本学名誉教授及び講師（非常勤）、公的研究費に関わる事務職員を対象にe-ラーニングを行い、理解度テストを行った。

さらに、啓発活動として「公的研究費の不正使用防止に係る啓発活動（No. 1～No. 4）」を教職員全員に対してメール配信を行い、所属長に所属部署の構成員への周知徹底を依頼した。

公的研究費採択者（分担者含む）を対象に、コンプライアンス研修を兼ねた科研費執行説明会を2022年8月1日に開催した。

2019年度より「人を対象とする医学系研究に係わる教育」として導入した一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）のe-ラーニングを研究倫理教育にも利用し、科研費申請の条件としている。

大学院生に対しては研究倫理の講義を受講後、APRIN e-ラーニングを受講することとしている。学部学生の講義においても研究倫理の内容を含む授業を行っている。

また、公的研究費の取扱いに係る事務職員についてもAPRIN e-ラーニングを受講することとし、関係者全員が受講した。

6. 実験安全管理について

2022年7月27日に組換えDNA実験安全委員会による「組換えDNA実験安全講習会」を開催した。

7. 医の倫理委員会について

本学における人を対象とする医学系研究が、世界医師会ヘルシンキ宣言、関連法規及び国の指針に基づいて適正に実施されるよう審査を行っている。2022年度は51件の研究課題について審査を行い承認した。

8. 動物実験委員会について

・動物実験に関する講習会

第1回として、2022年6月15日、さらに、6月22日から7月18日の間、オンライン（オンデマンド）形式で実施し、第2回として、10月19日から11月9日にオンライン（オンデマンド）形式で実施した。

9. 大阪歯科大学学術リポジトリの開設と教育研究業績の公開について

文部科学省が推進する学術情報の公開については、「大阪歯科大学学術リポジトリ」を立ち上げ、内容の充実に努めている。リポジトリには、学位論文内容要旨及び審査結果の要旨は学位授与後3ヶ月以内に、また、学位論文全文は、学位授与後1年以内に掲載した。

毎年度『大阪歯科大学教育研究論文目録』を刊行し、その内容を本学ホームページ（大学トップ>大阪歯科大学について>大学の紹介>研究室紹介）に掲載した。

V. 外部資金による教育研究等の進展

2022（令和4）年度の文部科学省・日本学術振興会の科学研究費を含む外部資金の獲得状況は以下のとおりであった。

○令和4年度科学研究費助成事業（科研費）（新規＋継続）

基盤研究（B）	4件
基盤研究（C）	35件
挑戦的研究（萌芽）	1件
若手研究（B）・若手研究	19件
合計	59件

科研費交付額	直接経費	7040万円
	間接経費	2115万円
合計		9152万円

（※ 基金分・継続課題については交付申請書に記載の額で計算）

○令和4年度私立大学等経常費補助金（日本私立学校振興・共済事業団）

3億4630万8000円（一般補助＋＊特別補助）

＊上記金額のうち、特別補助には「令和4年度私立大学等改革総合支援事業・タイプ1『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」等の採択分を含んでいる。

- 令和4年度私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）（令和3年度補正予算分）
4581万1000円（牧野学舎体育館耐震改修工事）
- 令和4年度私立大学等研究設備整備費当補助金（私立大学等研究設備等整備費）（令和3年度当初予算分） 758万4000円（オールインワン蛍光顕微鏡一式）
- 「医学部等教育・働き方改革支援事業」（文部科学省） 198万円
- 大学等における修学の支援に関する法律による令和4事業年度授業料等減免費交付金（日本私立学校振興・共済事業団） 4397万8400円
- 「物価高に対する経済対策支援金」（日本学生支援機構） 53万1835円
- 令和4年度臨床研修費等補助金（歯科医師）（厚生労働省） 6099万1000円
- 大阪府医療機関等物価高騰対策一時支援金（大阪府） 52万5000円
- 令和4年度医療施設運営費等補助金（歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業）（厚生労働省） 261万3000円

VI. 国際交流

本学は、従来からグローバル人材の育成に積極的に取り組んでいる。オープンキャンパスにおいては、「大阪歯科大学の学生国際交流力」という小冊子を配布しており、その際に短期海外研修に参加した学生が講演を行っている。2023年4月1日現在、海外17大学と協定を締結している（学生交流を行っているのは12大学）。

- ・ 本学学部生・大学院生及び協定校を含む海外の学生がオール英語で研究発表を行う「The 6th Forum for International Students」を開催し、学生・教職員が自由に聴講することによって、教育研究活動の推進に貢献している。第6回目となる今年度は、7月12日に本学（メイン会場：楠葉学舎）にて動画放映方式で開催された。なお、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、2022年度中の海外への学生及び教職員の派遣・交流は中止となっている。
- ・ 在籍留学生の生活相談、日本語ミニレッスンなどを随時行っている。また、「外国人留学生の手引き」「国際交流危機管理マニュアル」を配付し、きめ細かい支援を行った。また、未入国留学生のための事務手続きを進めた。

Ⅶ. 社会連携・社会貢献

本学は、「社会連携・社会貢献の方針」を定め、教育・研究・臨床の成果を適切に社会に還元することをホームページに明示している。

・第28回大阪歯科大学公開講座

本学の恒例事業となっている公開講座は、「口腔フローラ・腸内フローラと健康-細菌が健康寿命を延伸する-」をテーマに、山崎 和久氏（理化学研究所客員主管研究員・新潟大学名誉教授）と、沖永 敏則・本学歯学部教授を講師に、本学天満橋学舎及び楠葉学舎で開催され、延べ受講者数は657名であり好評を得た。

・枚方市との連携事業への参画

本学と枚方市は、今日まで学公連携を深めてきた。枚方市の審議会・委員会（環境審議会、保健所運営委員会）へ本学から教員を派遣し、市政運営に協力している。さらに、枚方市所在の5大学との地域連携を図るため設置されている「学園都市ひらかた推進協議会」の下記の事業にも積極的に参画した。また、枚方市民の健康増進や地域医療の充実を目指す「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」についても運営に協力した（大阪歯科大学公開講座（楠葉学舎で開催）は、連携事業）。

[ひらまなカレッジ健康セミナー]（2022年9月30日）

枚方市立楠葉生涯学習市民センター主催であり、川本 章代・本学歯学部准教授が「口腔ケアの方法を見直してみませんか～若い頃と同じでいいの？～」をテーマに講演を行った。

[ひらかた市民大学]（2022年10月29日）

特色ある5大学の専門的な知識・情報を学べるもので、輪番制で開催された。本学は、楠葉学舎2号館・第5大講義室において、沖永 敏則・本学歯学部教授が「口に棲んでいる細菌（口腔フローラ）は健康に良いの？」をテーマに講演を行った。

[子ども大学探検隊]（2022年11月13日）

毎年次世代を担う子どもたちに将来への夢を育むきっかけをつくる取り組みとして実施されているものである。本学は、「歯科大学で歯医者さん体験」をテーマに、枚方市内の小学生たちが、本学の学生スタッフとともに、歯に関する授業・クイズ、歯医者さんが使う材料で模型作りなどに挑戦した。

Ⅷ. 附置施設の活動

【図書館】

本学図書館は、楠葉学舎に本館、天満橋学舎、牧野学舎に分室を置き、利用サービスの充実を図った。教育研究活動及び学生の自学自習のために必要な図書、学術雑誌、電子媒体を備えた。

<2022年度>

・蔵書冊数	138, 146冊
・年間受入資料冊数	1, 711冊
・年間払出資料冊数	5, 144冊
・雑誌所蔵種類数（冊子体）	2, 263種類
・電子ジャーナル種類数（購入のみ）	6, 144種類

楠葉学舎本館、天満橋分室において、学生・大学院生等の利便性を考え、試験期等の期間を定めて休日開館を行った。

学術情報検索データベースについては、医学中央雑誌 Web 版等の他に、Journal Citation Reports (JCR)、国立国会図書館デジタルコレクションの利用が可能である。

施設・設備については、天満橋分室に図書除菌機を設置した。新型コロナウイルス感染症への対策としては、全館における毎朝の換気、消毒作業、閲覧室の使用席数制限、アルコール消毒液、空気清浄機、アクリルボードの設置を継続実施した。

そのほか、日本医学図書館協会近畿地区事務局や私立大学図書館協会・阪神地区協議会・相互利用連絡会の運営幹事校として、対外的な協会運営に参画した。

【医療イノベーション研究推進機構（TRIMI）】

2021年11月1日付で中央歯学研究所は、名称が「研究実験センター」となった。そして、新たに「先進医療研究センター」「事業化研究推進センター」を置き、以上、3センターを擁する「医療イノベーション研究推進機構（Translational Research Institute for Medical Innovation: (TRIMI))」として新たな組織で、その活動を開始した。2022年10月には、「事業化研究推進センター」に6部門（「開発支援部門」「事業連携部門」「知財管理部門」「治験管理部門」「データサイエンス部門」「地域医療連携部門」）を新設し、多様な研究推進への機能強化を図った。

2022年度は、教育研究用器機備品として、キーエンス オールインワン蛍光顕微鏡一式（令和4年度私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）に採択）を購入し、研究推進に寄与した。

TRIMI各センターでの講演会・講習会の開催状況は、次のとおりである。

[研究実験センター]

・第1回講演会

2023年1月25日「基礎研究に進むこと②」

講師：合田 征司教授（本学生理学講座）

・第1回実験動物実技講習会を8月17日に開催した。

[先進医療研究センター]

・第1回講演会

2022年10月25日「再生医療（概論）について」

講師：橋本 典也教授（本学歯科理工学講座）

・第2回講演会（オンデマンド開催）

2022年12月13日「幹細胞の培養について」

講師：岩崎 剣吾准教授（先進医療研究センター）

・第3回講演会（オンデマンド開催）

2023年2月13日「再生医療のための分析について」

講師：神田 龍平助教（先進医療研究センター）

[事業化研究推進センター]

・研究契約に関する講習会

2022年9月28日

講師：谷城 博幸教授（事業化研究推進センター）、小倉 啓七氏（顧問弁理士）他

・企業向け「医療機器開発講習会」

2022年10月7日

講師：谷城 博幸教授（事業化研究推進センター）、盛田 良介氏（独立行政法人医薬品医療機器総合機構審査専門員）他

・データサイエンス部門講演会

2023年3月29日

講師：山本 景一教授（事業化研究推進センター）

・他大学、他機関との連携

2023年2月17日に、三条市立大学との「歯科医療関連技術の研究開発及び実用化に係る包括連携に関する協定」を締結した。連携事項は、①歯科医療薬品（医薬品、医療機器及び再生医療等製品）及び歯科医療関連製品の研究開発（共同研究を含む）に係る活動、②研究開発に係る教職員、研究員、学生の交流、③研究開発及び実用化に係る地域企業との産学連携に関することである。

【教育情報センター】

本学全体におけるネットワーク機器更新・交換、ソフトウェアのバージョンアップ、既存インフラの維持及び運用管理を行った。

ODUnet（大学系システム、病院系システム）の運用管理のほか、学内ホームページには、頻りにセキュリティ情報を発信し、利用者への注意を喚起した。

私立大学情報教育協会の会員校とし、本学教員が委員会運営に参画するとともに、協会の調査研究事業等に参加し、日進月歩で変化する情報教育の状況を把握し、教育改善に資する情報提供に努めた。

2022年度は、以下のソフトウェア・ネットワーク機器について更新を行った。

- ・マイクロソフト School Agreement 契約更新（契約台数837台）
- ・ウイルス対策ソフト（トレンドマイクロ社のApeXOneを採用）
- ・病院系ネットワークのLAN配線のCat6化

2022年7月から9月にかけて、1Gbpsの通信速度に対応した高速通信用のCat6ケーブルの再配線化を行った（手術室は2023年3月に完了）。

- ・ODUnetの運用管理

[大学系システム]

楠葉・牧野・天満橋の各学舎に敷設されたネットワークインフラの稼働状況を監視、障害対応に備えるとともに、IPアドレス並びに各種ライセンスの管理などの業務を行った。

[病院系システム]

病院情報システムの運用サポートを行ったほか、システムサーバの稼働状況のチェック、関連ネットワーク機器の目視巡回などの業務を行った。

【大阪歯科大学歯科衛生士研修センター】

本学は、平成30年度歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業の実施団体に選定され、リカレント教育の拠点として本院内に「大阪歯科大学歯科衛生士研修センター」が発足した（2018年10月）。

センターにはeラーニング対応の大型ディスプレイを備えたゼミ室、デンタルチェア一研修室、訪問歯科診療室、X線撮影室、高性能機器が揃ったサプライなどが完備されている。

前年度に引き続き、2022年度も3回のプログラムを実施し、予定した3回の定員が54名であったがコロナ禍により受講者は33名であった。本センターの公開セミナーとして「歯科医療における多職種連携を再考する」をテーマに2022年10月23日に会場開催をした。本セミナーは、日本歯科衛生士会の特別研修に指定され、63名の申込みがあった。アンケート回答者は49名、そのうち60名に受講証明書を送付した。

2022年度のフォローアップ研修（2022年3月免許取得者限定）については、2022年6月5日に開催されたが、応募者14名で13名が参加した。

なお、本センターの事業は、厚生労働省から、令和4年度に医療施設運営費等補助金（歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業）261万3000円の交付を受けて行われた。

IX. 教員力の向上

1. 教員の資質向上への取り組み

教員の資質向上への取り組みとしてのファカルティ・ディベロップメント（FD）

セミナーについては、下記の内容で外部講師を招聘するなどして合計10回開催した。

《第1回》 演 題：多職種連携教育について

日 時：2022年7月7日

講 師：平井 みどり氏（京都大学大学院 特任教授、神戸大学 名誉教授）

出席者：168名

《第2回》 演 題：スウェーデンにおける歯科医療と日本の歯科医療

日 時：2022年7月29日

講 師：ホルムクヴィスト 木村 雅恵氏（Sandin Dentalklinik 常勤歯科医師）

出席者：152名

《第3回》 演 題：CBT問題作成セミナー

日 時：2022年7月29日

講 師：森田 学 氏（岡山大学 教授）

出席者：131名

《第4回》演題：CBT問題作成セミナー・ワークショップ

日時：2022年7月30日

講師：小川 匠氏（鶴見大学 教授）森田 学氏（岡山大学 教授）

《第5回》演題：科学研究費助成事業の申請書類の書き方1

日時：2022年8月1日

講師：小野 高裕氏（新潟大学大学院 教授）

出席者：146名

《第6回》演題：科学研究費助成事業の申請書類の書き方2

日時：2022年9月8日

講師：有地 淑子氏（本学教授）

出席者：159名（後日動画配信）

《第7回》演題：口腔ケアからオーラルマネジメントへ

日時：2022年11月10日（木）

講師：岸本 裕充氏（兵庫医科大学 教授）

出席者：160名（後日動画配信）

《第8回》演題：メタ認知に基づく学業不振対策

日時：2022年12月15日（木）

講師：三宮 真智子氏（大阪大学・鳴門教育大学 名誉教授）

出演者：112名

《第9回》演題：質の高い歯科医療の提供に向けた歯科技工士問題解決のトレンド 日

時：2023年1月12日

講師：赤川 安正氏（広島大学 名誉教授、本学客員教授）

出席者：127名

《第10回》演題：これからの国家試験対策 ―課題と新たな取り組み―

日時：2023年3月14日

講師：鈴木 敬一郎氏（兵庫医科大学 生化学 教授）

出席者：131名

2. 教員組織について

「教員組織の編制方針」に基づいて、教育、研究、臨床にそれぞれ活躍できる体制の充実に努めた。2022年5月1日現在の歯学部、医療保健学部、附属病院、歯科衛生士研修センターの専任教員数は、186名であり、十分な陣容を堅持している。

3. 教員評価について

「大阪歯科大学教員評価の実施に関する規程」に基づき、①教育活動、②研究活動、③臨床活動、④学内、社会貢献の4つの領域において、教員個々の到達目標を明確にし、役割基準評価及び卓越領域評価を実施した。この結果は、教育実践で顕著な成果をあげた教員の表彰（グッド・ティーチャー賞）や、任期制教員の再任用審査に活用している。

X. 附属病院の取り組み

本学附属病院では、患者の方々へ懇切丁寧な医療を提供して地域社会への貢献を図るとともに、臨床実習を中心とした歯科医学の教育研究を充実させることを目的として、日々の業務に取り組んでいる。そのために「病院理念」においては、「患者さまの病に共感し、あたたかい医療を提供する」ことを掲げ、さらに安全・安心な医療に努め、良質で高度な先進的医療を提供し、口腔保健の向上に努め、健康増進と長寿に貢献し、人権を尊重し、公正な医療を行い、さらに人間性豊かな、優れた医療人を育成することを基本方針として示し、これらの理念と基本方針を踏まえて2022年度も附属病院に与えられた使命を全うしてきた。

2022年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症及びそれに伴う社会情勢に対応し感染対策を徹底した結果、院内クラスターを発生させることもなく、年間を通して附属病院としての機能を維持し、地域医療や臨床教育等に係る社会的貢献に寄与してきた。

1. 附属病院組織改革委員会の取り組み

2016年4月より理事会のもとに法人関係委員会である附属病院組織改革委員会（以下、「改革委員会」）が設置され、患者数増加や病院収支の改善を目途として取り組みを行ってきた。

改革委員会では毎月の来院患者数目標達成状況や医療収入等の病院統計に係るさまざまな資料が提示され、その内容を精査してきた。また、その結果は附属病院の全診療科長が出席する病院運営委員会において、病院長による提言等を通して周知され、経営改善のための重要な指標として示されてきた。すなわち、改革委員会での議論が最終的に附属病院にフィードバックされ、患者数増加や収支改善に寄与してきたものである。

従前の改革委員会では（1）患者数の増加、（2）診療時間の延長、（3）「診療分野教員」の増員、（4）自費診療の増加、（5）訪問・在宅診療への積極的参入、（6）新診療部門の開設等の喫緊の課題が活発に議論され、速やかな実施に向けた取り組みが行われてきたが、さらに2020年度以降は収支の改善に重点を置き、人件費や医療経費を精査した上で、診療科毎の収支状況の評価を積極的に進めた。なお、今後は医員個人の診療収入、収支の評価を重点に行う方向にシフトするため、昇任、任期更新の規程等を整備し、附属病院の黒字化の実現を目指す。

また、人事的には2019年10月に臨床系講座の主任教授を科長とせず、各診療科の教授以外で診療能力が高く評価される人材を科長及び診療主任に据えるという大幅な改革を継続しており、その結果、前年度に続き、次項に示すようにコロナ禍においても十分な

医療収入と患者数を確保した。

2. 2022年度患者数・医療収入等

2022年度の開院日数は241日（土曜日診療含めず）で、外来患者数は254,666人（昨年度271,429人）、1日平均患者数は1,056.7人（昨年度1,114.8人）で、いずれも過去最多であった2019年度実績（外来患者数：280,659人、1日平均患者数：1,165人）を下回った。ただし、歯科外来患者数は2022年4月から画像オダを依頼した診療科のみでカウントする集計へ変更し、中央画像検査には算入しないこととした。その影響を考慮すると、ほぼ昨年同様の患者数が確保できたと推測できる。

医療収入についてみると累計で27億6987万7597円となり、これは過去最高の収入を記録した前年度収入（25億4089万2153円）を上回る結果となった。コロナ禍で未だ患者数が減少した状況において、前年度同等以上の医療収入を示したことは病院全体の医療経営の適正化が図られていることを示唆していると考えられる。

また、矯正歯科と小児歯科で行っている土曜日診療については2022年度の累計患者数が9,890人で、前年度より8.1%増加しており、コロナ禍であっても、来院患者の求めに応えたより高い評価を得ているものと思われ、今後も継続していくこととしている。

3. 病院情報システム（電子カルテ）について

2022年度は、病院情報システム更新年度となり、更新に向け病院全体で取り組んだ1年であった。

まず、病院システム更新にあたり、11のワーキンググループを立ち上げた。各ワーキンググループは、歯科医師をはじめ、多職種で構成され、より良いシステム構築に向け多くの議論が重ねられた。

2022年10月8日に新システムへと更新した。患者への影響としては、運用変更（診察券の変更、予約票の配付）に伴い、更新当初は戸惑いが見られたが、少しずつ浸透し、大きなトラブルもなく経過した。

また2023年3月20日には、自動再来受付機（3台）を導入した。導入にあたり、業務の効率化や委託報酬費の削減効果が見込まれる。導入後間もないため、病院内及び患者の声も考慮しながら、より良い運用に向けて更に検討を行っていくこととする。

4. 歯科医師の派遣、訪問歯科診療

社会福祉法人阪神福祉事業団センター診療所へ医員派遣を行い、地域医療の体制確保に寄与することができた。

一方、当院では従前より国家公務員共済組合大手前病院（大阪市中央区）、及び関西電力病院（大阪市福島区）への歯科訪問診療を実施しており、入院患者の周術期口腔機能管理等の医療を提供してきたが、2018年6月28日に本法人が大阪府下の約200の介護老人保健施設が加盟する公益社団法人大阪介護老人保健施設協会と連携協定を締結したことを踏まえ、今後はこのような介護老人保健施設への訪問診療を拡充し、地域包括ケア

システムに貢献していく責を担うこととなった。

5. 歯科医師臨床研修

2022年度の研修修了者は単独型と複合型を併せて76名であり、研修歯科医を受け入れた協力型（I）臨床研修施設は43施設であった。下表に2018年度から2022年度までの当院の研修歯科医受入数の推移を示す。なお、2022年度に本事業に対して交付された臨床研修費等補助金は6099万1000円で前年度に比べ2006万8000円の減額となった。なお、補助金減額の主な理由は、研修歯科医が前年度に比べ30名の減員があったためである。

研修歯科医受入数（人）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
単独型	16	16	18	17	14
複合型	87	83	87	89	62
計	103	99	105	106	76

6. 健康セミナーについて

当院では患者だけではなく一般市民の参加も念頭に置いた健康セミナーを2017年8月からおよそ月1回の頻度で開催しており、多くの参加者から好評をいただき、その数も増加傾向にあったが、2019年度末からの所謂コロナ禍により2019年度最後のセミナーを中止して以降、2021年度は1度も開催することができなかったが、新型コロナウイルス感染状況等を考慮した上で、2022年度は、3月10日に辻村 まり教授（眼科）を講師に開催した。

7. 病診連携講演会

病診連携講演会は、2022年3月11日に3年ぶりの開催となり、有地 淑子教授（歯科放射線学講座）を講師に23施設24名の参加があった。

また、医療機関からの患者紹介については、コロナ禍にもかかわらず、2022年度も例年同様に約2,700の医療機関から、紹介された新患者数は12,817人、初診患者の紹介率は約50%に達している。このように多くの患者を紹介いただいていることを重視し、今後も次年度以降、地域の医療機関との連携を確保するためにも本事業の実施を念頭に置いている。また、2021年に10人以上の紹介をいただいた289医療機関を評価し、謝意を表する趣旨で「医療連携施設認定証」を交付した。

8. 地域医療連携

地域歯科医療の中核として、2022年度も引き続き地域の歯科診療所等の先生方からのCT、MRI、歯科用コーンビームCT等の画像診断及び病理組織検査を積極的に受け入れ、近隣医療機関の支援に寄与してきた。特に関西医科大学天満橋総合クリニックからのMRI検査依頼は高額な検査故に2022年度はコロナ禍で若干の件数減があったとは言え、年間1,000万円以上の収入を得ていることも鑑み、継続して連携体制を維持し

ていくこととしている。また、一層の診療活動の充実を図るため、2021年度は歯科用コーンビームCTについて新機種を導入したほか、2022年度にはMRIを3テスラへ更新した。

9. 院内感染対策講習会、医療安全講習会、医薬品安全管理講習会、医療機器安全管理講習会

2022年度は下記の日程で開催し、多数の教職員の受講により当院の医療安全と院内感染対策の一助としたが、新型コロナウイルス感染症対策として、ZOOM等のネット配信や録画済み動画の放映を多用し、また、講習会場の密を避けるためにサテライト会場の設置やオンデマンド講習を行って、感染対策に万全を期してきた。

・院内感染対策講習会（カッコ内は参加者数、以下同）

- 2022年 4月 1日 「院内感染対策①」（84名）
「院内感染対策②」（84名）
- 4月14日 「イラストで理解するコロナ時代の感染対策
@歯科領域2022」（144名）
- 6月 「成人の歯科領域における抗菌薬適正使用」
オンライン開催（225名）
- 8月19日 「イラストで理解するコロナ時代の感染対策
@歯科領域2022」動画放映（50名）
- 10月 6日 「コロナ禍のインフルエンザワクチン」（104名）

・医療安全講習会

- 2022年 4月 4日 「診療用放射線安全利用研修」（76名）
- 4月 5日 「医療現場のコミュニケーション 一人一人が医院の顔」（76名）
- 4月 5日 「医療安全講習①（概論）」（76名）
「医療安全講習②（救急蘇生）」（76名）
- 4月21日 「中央手術室オリエンテーション」（57名）
- 5月 「徳島大学での医療安全管理」オンライン（376名）
- 10月11日 「(新)医療安全管理インシデントレポートシステムの紹介」
- 11月16日 「医療安全へのポジティブアプローチ
-Resilience から心理的安全性まで-」（103名）
- 2023年 2月 9日 「患者アンケートの結果報告」（120名）
- 3月17日 「診療用放射線の安全利用の研修」オンライン（199名）

・医薬品安全管理講習会

- 2022年 4月 1日 「医療安全講習（医薬品①）」（76名）
「医療安全講習（医薬品②）」（76名）
- 7月21日 「毒物・劇物の取り扱いとアレルギー登録について」（126名）

・医療機器安全管理講習会

- 2022年 4月 4日 「医療安全講習（医療機器①）」（76名）
「医療安全講習（医療機器②）」（76名）

6月16日 「新規導入3T MRIの利用について」(190名)

9月22日 「PACS操作説明会 ～画像閲覧等の方法～」(119名)

・医療ガスに係る安全管理のための職員研修

2022年11月15日 「医療ガスの安全管理について

—酸素ボンベのヒヤリ・ハット対策—」(81名)

XI. 施設・設備(教育研究等環境)の整備

本学では、「教育研究環境の整備の方針」を制定し、その中で「楠葉・牧野・天満橋各学舎の施設・設備を可能な限り同水準に整備するよう努める。」としている。2022年度の主な施設・設備の整備は、以下のとおりである。

[楠葉キャンパス]

- ・楠葉学舎3号館・講堂空調用リモートユニット更新工事
- ・中央監視盤照明用監視盤改修工事
- ・高圧ケーブル改修工事(2年計画で実施)

[牧野キャンパス]

- ・本館耐震診断
- ・体育館耐震改修工事
- ・牧野学舎3号館 LED照明器具更新工事

[天満橋キャンパス]【附属病院】

- ・本館熱源設備更新工事
- ・本館圧縮機更新、圧縮機用制御盤新設
- ・本館北側外壁補修工事
- ・非常用自家発電設備(精密点検)

XII. 法人・大学の管理運営

本学は、前年度に引き続き、限られた収入の中から教育・研究・臨床・社会貢献等の各活動の活性化に努めるとともに、人材育成、施設設備の整備、業務改善を進めた。

- ・法人・大学全体の機能を維持すべく、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しつつ学生・教職員への感染防止対策を徹底して、事業計画が滞ることがないように万全を期した。
- ・大学基準協会の大学評価(機関別認証評価)の結果を踏まえ、大学全体、学部等のレベルで自己点検・評価活動を実施するとともに、ガバナンス・コードの点検を実施し、その遵守の徹底を図った。

- ・ 教職員の資質向上を図るため、外部講師を招き、下記の通りSD（スタッフ・ディベロップメント）を2回実施した。これらは教職員の勤務状態を配慮し、動画配信により受講機会の複数化を図った。
 - 第1回「個人情報保護研修」（2022年9月20日）
 - 第2回「大学設置基準の改正について」（2023年1月20日）
- ・ 2023年1月5日の新年互礼会を教職員全体のFD・SDとし、理事長・学長が本学の目指す重点計画（事業計画、中期計画の内容を含む）について講演した。その中では、SDGsの取り組みについて、教職員の積極的な参画について要請があった。
- ・ 育児・介護休業法の改正（2022年4月1日施行）に伴い、本学の育児休業規程を改正し、産後パパ育児休業（出生時育児休業）を創設した。
- ・ 教職員に対する人権意識向上の一環として、2022年度人権啓発講演会は、9月1日「SDGsと人権～危機の時代に持続可能な社会をめざす～」をテーマに、外部講師（朴 君愛氏：アジア・太平洋人権情報センター上席研究員）を招き対面で開催した。また、講演会の模様は、録画配信した。さらに、10月6日から11月7日にかけて「人権標語」の学内募集を行い、最優秀賞1点（歯学部第2学年1名）、優秀賞1点（歯学部第4学年）、佳作1点（職員1名）を選考し、学内ホームページに掲載した。

[附属資料]

1. 2022年度学生数（2022年5月1日現在）（ ）は女子

歯学部	第1学年	141	(76)	歯学研究科	第1学年	38	(17)
	第2学年	126	(49)		第2学年	48	(20)
	第3学年	120	(62)		第3学年	40	(17)
	第4学年	136	(77)		第4学年	32	(11)
	第5学年	132	(67)			158	(65)
	第6学年	152	(74)				
		807	(405)				

医療保健学部	第1学年	口腔保健学科	62	(62)	口腔工学科	20	(13)
	第2学年	口腔保健学科	72	(72)	口腔工学科	30	(13)
	第3学年	口腔保健学科	73	(72)	口腔工学科	27	(7)
	第4学年	口腔保健学科	76	(76)	口腔工学科	18	(7)
			283	(282)		95	(40)

医療保健学研究科

修士課程	第1学年	8	(6)	博士課程（後期）	第1学年	7	(6)
	第2学年	6	(5)		第2学年	10	(9)
		14	(11)		第3学年	8	(7)
						25	(22)

2. 国家試験の結果

1) 第116回歯科医師国家試験の結果

2023年3月16日合格発表

	(総数)			(新卒)			(既卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	185	125	67.6	81	64	79.0	104	61	58.7
全国	3,157	2,006	63.5	1,919	1,483	77.3	1,238	523	42.2

2) 第32回歯科衛生士国家試験の結果

2023年3月24日合格発表

	(総数)			(新卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	68	68	100.0	68	68	100.0
全国	7,470	6,950	93.0	7,187	6,842	95.2

3) 令和4年度歯科技工士国家試験の結果

2023年3月24日合格発表

	(総数)			(新卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	17	17	100.0	17	17	100.0
全国	904	820	90.7	848	778	91.7

4) 第35回社会福祉士国家試験の結果

2023年3月7日合格発表

	(総数)			(新卒)			(既卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	11	5	45.5	6	5	83.3	5	0	0.0
全国	36,974	16,338	44.2	-	-	-	-	-	-

3. 2023年度入学試験状況

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数※	入学者数		
歯学部	学校推薦型	109	62	128		
	一般前期	247	83			
	一般後期	85	22			
	共通テスト利用前期	99	16			
	共通テスト利用後期	30	3			
	プラス1前期	83	4			
	プラス1後期	24	3			
	外国人留学生	13	2			
	転入・編入前期	7	0			
	転入・編入後期	4	4		4	
	外国人留学生(2年次)	1	0			
	医療保健学部 口腔保健学科	総合型	40		39	80
		推薦型	41		41	
一般前期		15	11			
一般後期		3	2			
共通テスト利用前期		5	4			
共通テスト利用後期		1	1			
外国人特別		0	0			
2年次編入学者選抜		0	0	0		

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数	入学者数	
医療保健学部	口腔工学科	総合型	10	10	
		推薦型	7	7	
		一般前期	4	3	
		一般後期	1	1	26
		共通テスト利用前期	2	1	
		共通テスト利用後期	0	0	
		外国人特別	7	7	
		ダブルディグリープログラム	0	0	0
		2年次編入学者選抜	1	1	1
歯学研究科	一般一次	12	12		
	一般二次	15	15		
	一般三次	1	1	42	
	社会人特別	15	5		
	外国人留学生特別選抜	9	9		
	第1回募集	5	5		
医療保健学研究科	修士課程	第2回募集	1	1	7
		第3回募集	1	1	
		第1回募集	0	0	
博士課程 (後期)	第2回募集	1	1	3	
	第3回募集	2	2		

※補欠合格者含む

4. 2021年度会計実査 2022年4月4日(月)
5. 大学歯学部・大学院歯学研究科入学式 2022年4月8日(金)午前10時(於:楠葉学舎)
6. 大学医療保健学部・大学院医療保健学研究科入学式
2022年4月8日(金)午後2時(於:楠葉学舎)
7. 新入生研修 歯学部 2022年4月11日(月)、12日(火)(於:楠葉学舎)
医療保健学部 2022年4月11日(月)～14日(木)(於:牧野学舎)
8. 2021年度監事監査 2022年5月16日、17日(於:楠葉学舎)

9. オープンキャンパス

1) 歯学部

形態	日程	参加状況	実施場所
来場型	7月23日	226名	楠葉学舎
	8月13日	95名	天満橋学舎
オンライン型	7月23日 ～10月31日	総視聴回数 719回※	Web

※視聴回数内訳：英語 239回、数学 200回、物理 113回、化学 72回、生物 95回

2) 医療保健学部

形態	日程	参加状況		実施場所 (Web含む)	
		来場	動画申込		
来学型 ・動画視聴型	第1回	3月21日	34名	44名	牧野学舎
	第2回	5月15日	29名	45名	牧野学舎
	第3回	6月19日	40名	46名	牧野学舎
	第4回	7月31日	60名	76名	牧野学舎
	第5回※	8月10日	13名	19名	天満橋学舎
	第6回	8月21日	42名	58名	牧野学舎
実習見学	7月19日 ～22日	2名			牧野学舎
総合型選抜面接対策講座	8月28日	63名			牧野学舎

※口腔工学科のみ対象

3) 看護学部（仮称）

形態	日程	参加状況	実施場所
個別相談会	3月21日	2名	牧野学舎
第1回	6月19日	20名	楠葉学舎
高大連携※	7月16日	31名	楠葉学舎
第2回	7月31日	27名	楠葉学舎
第3回	8月21日	23名	楠葉学舎
第4回	12月25日	15名	楠葉学舎

※協定校（香里ヌヴェール学院中学・高校 28名／聖母女学院高校 3名）が来学

10. 大学父兄会・共済会総会（於：楠葉学舎）

2022年6月25日（土）午後1時 総会出席者数 230名、個別懇談会出席者数 281名

11. 第1回「大阪歯科大学 SDGs AWARDS」開催（2022年8月21日午後2時、会場：楠葉学舎講堂）
12. 第54回全日本歯科学学生総合体育大会 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
13. 2022年度FDセミナー（本文参照）
14. 2022年度SDセミナー（本文参照）
15. 第28回大阪歯科大学公開講座
 - ・メインテーマ
「口腔フローラ・腸内フローラと健康—細菌が健康寿命を延伸する—」
 - ・日程 天満橋講座 2022年9月3日（土）、10日（土）午前10時～正午
受講者延べ251名（於：100周年記念館）
 - 枚方講座 2023年1月21日（土）、28日（土）午後1～3時
受講者延べ406名（於：楠葉学舎）
16. 2022年度人権講演会
 - 2022年9月1日（於：100周年記念館）（9月14日～10月14日 Web 配信）
 - テーマ「SDGs と人権 ～危機の時代に持続可能な社会をめざす～」
 - 講師：一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）
上席研究員 朴 君愛 先生
17. 第5・6学年父兄会 2022年9月4日（日）（於：100周年記念館） 84名出席
18. 2022年度大学祭
 - 体育祭は中止、楠葉祭はオンライン上で抽選会及び軽音楽部のライブ（無観客）を実施
19. 2022年度解剖体慰霊祭・御遺骨返還式 2022年11月11日（金）午後1時（於：楠葉学舎講堂）
20. 実験動物慰霊祭
 - 2022年11月16日（水）～22日（火）、焼香台を楠葉学舎3号館1階大学院講義室横に設置
21. 2022年度防災・防火訓練

楠葉学舎	2022年11月14日	※枚方東消防署との合同訓練
牧野学舎	2022年11月29日	

※天満橋学舎では「教養型防災訓練」を2回（2022年9月、2023年2月）実施

22. 共用試験 2022 歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験
 - ・臨床実地試験 2022 年 12 月 6 日（医療系大学間共用試験実施評価機構派遣監督者視察日）
 - ・一斉技能試験 2022 年 12 月 17 日

23. 2022 年全学教職員忘年慰労会 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

24. 2023 年新年互礼会 2023 年 1 月 5 日（於：楠葉学舎）

25. 2022 年度共用試験歯学系 CBT 並びに OSCE
 - ・CBT 2023 年 2 月 14 日（火）午前 9 時 30 分（於：楠葉学舎）
 - ・OSCE 2023 年 2 月 19 日（日）午前 9 時（於：天満橋学舎）

26. 2022 年度大学歯学部卒業式並びに大学院歯学研究科学学位認証式
2023 年 3 月 3 日（金）午前 10 時（於：楠葉学舎）

27. 2022 年度大学医療保健学部卒業式並びに大学院医療保健学研究科学学位認証式
2023 年 3 月 10 日（金）午前 10 時（於：楠葉学舎）

28. 2022 年度歯科医師臨床研修修了証授与式 2023 年 3 月 24 日（於：天満橋学舎）

29. 特待生の採用
 - ・歯学部 2 年から 6 年の各学年 3 名、計 15 名に対し授業料各 100 万円免除
 - ・医療保健学部
 - 口腔保健学科 第 1 学年 1 名、第 3 学年 1 名、第 4 学年 1 名
 - 口腔工学科 第 1 学年 1 名、第 2 学年 1 名、第 3 学年 1 名の計 6 名に対し授業料合計 294 万円免除

30. 大学学内奨学生選考 1 名の学生に対して総額 550,000 円の奨学金を貸与

31. 新型コロナウイルスワクチンの職域接種（於：楠葉学舎）
3 回目：2022 年 4 月 16 日（土）、23 日（土） ※1,2 回目は 2021 年度に実施

32. 2023 年度研修歯科医の募集定員 プログラム S（単独型）20 名、プログラム C（複合型）120 名

33. 令和 4 年度私立大学等改革総合支援事業
タイプ 1 「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」に採択

34. 「医学部等教育・働き方改革支援事業」に選定 補助金予定額 1,980,000 円
35. 学位授与
- 1) 博士（歯学）
 - 学位記番号 甲第 940 号～ 970 号 31 名に学位記授与
 - 学位記番号 乙第 1641 号～1652 号 12 名に学位記授与
 - 2) 博士（口腔科学）
 - 学位記番号 甲第 1 号～ 5 号 5 名に学位記授与
 - 3) 修士（口腔科学）
 - 学位記番号 第 32 号～35 号 4 名に学位記授与
36. 歯学部生が SCRIP 日本大会で準優勝
 - ・歯学部 5 年 木畑佑基 / 令和 4 年度日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRIP)日本代表選抜大会
37. 医療保健学研究科博士課程（後期）大学院生が学術大会ポスター発表賞を受賞
 - ・医療保健学研究科博士課程（後期）3 年 川西順子 / 日本歯科衛生学会第 16 回学術大会
38. 大阪歯科大学楠葉新学舎（仮称）起工式（2022 年 12 月 9 日午前 10 時）
39. 牧野学舎体育館耐震工事（2023 年 1 月 7 日～3 月 31 日）
40. 三条市立大学と「歯科医療関連技術の研究開発及び実用化に係る包括連携に関する協定」に調印
(2023 年 2 月 17 日)
41. 2022 年度法人理事会・法人評議員会・歯学部主任教授会・歯学部教授会・医療保健学部教授会・歯学研究科会議・医療保健学研究科会議
- 1) 法人理事会 16 回開催
(2022 年 4 月 1 日(2 回)、4 月 28 日、5 月 26 日、6 月 23 日、7 月 28 日、8 月 25 日、9 月 29 日、10 月 27 日、11 月 24 日(2 回)、12 月 28 日、2023 年 1 月 26 日、2 月 24 日、3 月 23 日(2 回))
 - 2) 法人評議員会 5 回開催
(2022 年 4 月 1 日、5 月 26 日、11 月 24 日、2023 年 2 月 24 日、3 月 23 日)
 - 3) 歯学部主任教授会 19 回開催
(2022 年 4 月 13 日、4 月 27 日、5 月 11 日、6 月 8 日、7 月 13 日、8 月 10 日、8 月 24 日、9 月 14 日、10 月 12 日、11 月 9 日、11 月 16 日、12 月 1 日、12 月 14 日、2022 年 1 月 13 日、1 月 18 日、2 月 9 日、2 月 13 日、3 月 9 日、3 月 29 日)

- 4) 歯学部教授会 2回開催
(2022年4月13日、2023年3月29日)
- 5) 医療保健学部教授会 16回開催
(2022年4月20日、5月18日、6月15日、7月20日、8月17日、9月21日、10月19日、
10月31日、11月16日、11月30日、12月21日、2023年1月18日、2月10日、2月15日、
3月15日、3月22日)
- 6) 歯学研究科会議 13回開催
(2022年4月27日、5月25日、6月22日、7月27日、8月24日、9月28日、10月12日、
10月26日、11月22日、12月27日、2023年1月25日、2月22日、3月22日)
- 7) 医療保健学研究科会議 12回開催
(2022年4月20日、5月18日、6月15日、7月20日、8月17日、9月21日、10月19日、
11月16日、12月21日、2023年1月18日、2月15日、3月15日)

42. 令和4年の叙勲受章者(本学関係)

大学14回 川添 堯彬 奈良県 旭日中綬章 共15名

43. 教職員数(2022年5月1日現在:357名)

1) 教員数 186名

学長1名

歯学部 147名

主任教授24名、専任教授9名、准教授15名、講師40名、助教59名

医療保健学部 25名

教授8名、准教授4名、講師5名、助教5名、助手3名

附属病院 12名

専任教授3名、准教授1名、講師6名、助教2名

歯科衛生士研修センター 1名

准教授1名

2) 職員数 171名

事務・技術81名、医療89名、労務1名

44. 人事

1. 法人関係

1) 法人役員就任(2022年4月)

理事長

川添 堯彬

常務理事(総務兼財務担当)

下村 錢三郎

常務理事(教学兼総務担当)

田中 昭男

理事	(教学担当)	今井 弘一
理事	(教学担当)	山本 一世
理事	(教学担当)	三宅 達郎
理事	(調査担当)	岡 邦恭
理事	(総務兼財務担当)	上田 雅俊
理事	(財務兼人事担当)	中嶋 正博
理事	(人事担当)	諏訪 文彦
理事	(財務担当)	古川 壽男
監事		本井 文夫
監事		生駒 等

2) 理事退任 岡 邦恭 (2022年12月31日付)、今井 弘一 (2023年3月31日付)

3) 評議員就任

池尾 隆、松本 尚之、藤原 眞一、梅田 誠、辻林 徹、前田 博史、馬場 俊輔、
百田 義弘、高橋 一也、富永 和也、沖永 敏則、野崎 中成、岡田 太郎、岡本 学、
久富 明宏、澤田 隆、芦田 欣一、安宅 公男、和手 甚京、城村 幸治、酒井 昭則
恩田 信雄、加藤 信次、橋本 成人、吉光 博史、大塚 俊裕、玉置 敏夫、下村 錢三郎、
鈴木 實、岡 邦恭、北條 博一、松本 圭右、上田 雅俊、末瀬 一彦、和唐 雅博、
柿本 和俊 (2022年4月1日付)、岡 邦恭 (2022年4月28日付) ※選任条項変更、
川添 堯彬 (2022年4月28日付)、徳富 敏信、大松 高、吉本 一馬 (2022年5月26日付)、
中嶋 正博、雄西 智恵美 (2023年1月26日付)

4) 評議員死亡退任 玉置 敏夫 (2022年6月28日付)、久富 明宏 (2023年3月30日付)

5) 評議員退任 岡 邦恭 (2022年4月28日付※選任条項変更のため、2022年12月31日付)、
藤原 眞一 (2023年3月31日付)

2. 名誉教授称号授与 岡崎 定司 共2名

3. 退職

1) 定年退職 再生医療学室 主任教授 今井 弘一 共11名

2) 依願退職 解剖学講座 助教 上村 竜也 共25名

3) 任期満了退職 歯科医学教育開発センター 特任教授 西川 哲成 共4名

4) 定年退職後再雇用満了退職 研究支援課 事務職員 東 介伊子 共3名

4. 昇任

1) 歯学部主任教授 英語教室 准教授 藤田 淳一

2) 歯学部専任教授 口腔インプラント学講座 准教授 草野 薫

3) 歯学部退職に伴う教授特別昇任 口腔外科学第二講座 准教授 大西 祐一

4) 歯学部准教授 口腔衛生学講座 講師 土居 貴士

5) 医療保健学部准教授 口腔保健学科 講師 梶 貢三子 共2名

6) 歯学部講師 口腔治療学講座 助教 辻 則正 共3名

7) 医療保健学部講師 口腔工学科 助教 首藤 崇裕 共2名

8) 職員 経理課 課長補佐 武本 岳 共9名

5. 任用

- 1) 歯学部主任教授 欠損歯列補綴咬合学講座 博士(歯学) 前川 賢治 共2名
- 2) 歯学部専任教授 附属病院眼科 博士(医学) 辻村 まり 共3名
- 3) 歯学部講師 解剖学講座 博士(神経科学) 吉川 雅朗 共2名
- 4) 歯学部助教 口腔衛生学講座 博士(歯学) 吉松 英樹 共9名
- 5) 医療保健学部助手 口腔工学科 方 思棋
- 6) 大学院歯学研究科教員
大学院教授 上村 守 共22名、大学院准教授 城 潤一郎 共16名
大学院講師 井上 博 共22名、大学院助教 藤本 哲也 共12名
- 7) 大学院医療保健学研究科修士課程教員
大学院教授 今井 弘一 共11名、大学院准教授 石川 由美、
大学院講師 芦田 麗子 共4名、大学院助教 樋口 鎮央 共5名
- 8) 大学院医療保健学研究科博士課程(後期)教員
大学院教授 和唐 雅博 共10名、大学院准教授 山中 武志 共2名、
大学院講師 梶 貢三子 共2名、大学院助教 樋口 鎮央 共4名
- 9) 看護師 附属病院 大林 良美 共5名
- 10) 歯科衛生士 附属病院 中村 文香
- 11) 歯科技工士 附属病院 小出 慎也 共2名
- 12) 放射線技師 附属病院 寺島 秀
- 13) 事務部長 病院事務部 宇都宮 公明
- 14) 任期付職員の専任職員登用 歯科技工士 中井 菜月 共8名
- 15) 任期付職員新規採用 教務学生課 事務職員 金井 勇輝 共19名
6. 歯学部任期制教員任期更新 歯科医療管理学室 専任教授 田中 武昌 共12名
7. 医療保健学部任期制教員任期更新 口腔保健学科 教授 糸田 昌隆 共4名
8. リサーチ・アシスタント採用 有歯補綴咬合学 大学院2年 谷口 晃平 共2名
9. 教育分野異動 口腔外科学第二講座診療分野 助教 渡辺 昌広
10. 所属異動 看護系学部開設準備室 室長 坂下 和子 共17名
11. 在籍出向 口腔インプラント学講座教育分野 講師 原 朋也
12. 兼務 インスティテューショナル・リサーチ(IR)室 室長 坂下 和子 共6名
13. 定年退職後再雇用 歯科衛生士研修センター 副センター長 高田橋 美幸 共8名
14. 委嘱
 - 1) 大学役職者(2022年4月1日付)

副学長、歯学部長、総務部長	田中 昭男
副学長、医療保健学部学部長、大学院医療保健学研究科科長	今井 弘一
教務部長	山本 一世

- | | |
|--|-------|
| 学生部長 | 百田 義弘 |
| 図書館長 | 藤原 眞一 |
| 附属病院病院長 | 中嶋 正博 |
| 大学院歯学研究科科長 | 梅田 誠 |
| 医療イノベーション研究推進機構長、附属病院副病院長 | 馬場 俊輔 |
| 教育情報センター所長 | 辻林 徹 |
| 国際交流部長 | 三宅 達郎 |
| アドミッションセンター長 | 野崎 中成 |
| 附属病院副病院長 | 松本 尚之 |
| 口腔保健学科学科長 | 和唐 雅博 |
| 口腔工学科学科長 | 柿本 和俊 |
| 2) 医療イノベーション研究推進機構センター長 | |
| 研究実験センター長 | 戸田 伊紀 |
| 先進医療研究センター長 | 橋本 典也 |
| 事業化研究推進センター長 | 馬場 俊輔 |
| 3) 歯学部特任教授 病理学室 田中 昭男 共6名 | |
| 4) 医療保健学部特任教授 口腔保健学科 和唐 雅博 共3名 | |
| 5) 看護医療学部(仮称)特任教授 雄西 智恵美 | |
| 6) 歯学部特任講師 口腔治療学講座 西川 郁夫 | |
| 7) 看護医療学部(仮称)特任講師 眞浦 有希 | |
| 8) 名誉客員教授 岡山大学 名誉教授 山下 敦 | |
| 9) 歯学部客員教授 東京医科歯科大学 元教授 五十嵐 順正 共13名 | |
| 10) 医療保健学部客員教授 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 主任教授 岸本 裕光 | |
| 11) 客員准教授 口腔治療学講座 好川 正孝 共2名 | |
| 12) Visiting Professor 韓国慶熙大学校歯科大学 主任教授 Young-Guk Park 共9名 | |
| 13) 2022年度歯学部講師(非常勤) 397名 | |
| 2022年度医療保健学部講師(非常勤)等 117名 | |
| 2022年度歯学研究科講師(非常勤) 31名 | |
| 2022年度医療保健学研究科(修士課程)講師(非常勤) 19名 | |
| 2022年度医療保健学研究科博士課程(後期)講師(非常勤) 11名(以上2022年5月1日現在) | |
| 14) 診療科科長 保存修復科 岩田 有弘 共19名 | |
| 15) 診療科主任 保存修復科 横田 啓太 共16名 | |
| 16) 臨床教授 なかじま歯科医院 院長 中島 康 共2名 | |
| 17) 臨床系教員教育分野・診療分野の発令解除 歯科保存学講座 准教授 吉川 一志 共88名 | |
| 18) 医員等 39名 | |
| 19) 病院医員 62名 | |

20) 大学院医員 76 名

21) ティーチング・アシスタント 口腔インプラント学 大学院 2 年 祁 業鈞 共 13 名

22) ポストドクトラルフェロー 歯科保存学 鞆 雅楠 共 2 名

23) 学生相談室カウンセラー 臨床心理士 辻野 達也 共 2 名

24) 医務室嘱託医師 大阪大学医学部 医師 木田 博 共 3 名

25) 歯学部学年指導教授

1 年 藤原 眞一、2 年 富永 和也、3 年 三宅 達郎、4 年 合田 征司

5 年 小野 圭昭、6 年 前田 博史

26) 歯学部学友会

会長 主任教授 高橋 一也、副会長 主任教授 上村 守

45. 国際交流（本文参照）

46. 補助金・助成金・支援金

1) 2022 年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金交付（10 件）2,500,000 円

2) 2022 年度科学研究費補助金交付（文部科学省）（本文参照）

3) 令和 4 年度私立大学等経常費補助金交付（本文参照）

4) 令和 4 年度私立学校施設整備費補助金交付（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））（令和 3 年度補正予算分） 45,811,000 円

5) 令和 4 年度私立大学等研究設備整備費等補助金交付（私立大学等研究設備等整備費）（令和 3 年度当初予算分） 7,584,000 円

6) 大学等における修学の支援に関する法律による令和 3 事業年度授業料等減免費交付 43,978,400 円

7) 日本学生支援機構「物価高に対する経済対策支援金」交付決定 531,835 円

8) 令和 4 年度臨床研修費等補助金交付 60,991,000 円

9) 大阪府医療機関等物価高騰対策一時支援金交付 525,000 円

10) 令和 3 年度医療施設運営費等補助金（歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業）交付 2,613,000 円

11) 寄贈

大阪歯科大学同窓会から大阪歯科大学同窓会 100 周年を記念して、学術研究助成として（10,000,000 円） 共 6 件

47. 諸規程等

1) 大阪歯科大学医療保健学部履修規程（一部改正）

2) 大阪歯科大学における科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）直接経費の使用取決（一部改正）

- 3) 歯学部の第5・6学年の在学者に対する申合せ（施行）
- 4) 大阪歯科大学歯学部における勉学とクラブ活動に関する内規（一部改正）
- 5) 大阪歯科大学リサーチ・アシスタントに関する規程（一部改正）
- 6) 大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）における修士（口腔科学）学位論文の学会発表並びに未印刷公表修士（口腔科学）学位論文の原稿記載及び印刷公表に関する細則（一部改正）
- 7) 大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）における博士（口腔科学）学位論文の学会発表並びに未印刷公表博士（口腔科学）学位論文の原稿記載及び印刷公表に関する細則（一部改正）
- 8) 研究不正防止計画推進委員会規程（一部改正）
- 9) 学校法人大阪歯科大学経理規程（一部改正）
- 10) 学校法人大阪歯科大学予算執行規程（一部改正）
- 11) 学校法人大阪歯科大学特任教員給与規程（一部改正）
- 12) 通勤手当支給内規（一部改正）
- 13) 大阪歯科大学附属病院規程（一部改正）
- 14) 大阪歯科大学附属病院患者相談窓口規程（施行）（以上 2022年4月1日付）
- 15) 大阪歯科大学公的研究費の取扱に関する規程（一部改正）
- 16) 大阪歯科大学における科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）取扱規則（一部改正）（以上 2022年4月1日付）（以上 2022年7月28日付）
- 17) 大阪歯科大学学則（一部改正）（2022年4月1日付）（2022年8月1日付）
- 18) 学校法人大阪歯科大学事務組織及び事務分掌規程（一部改正）（2022年4月1日付）（2022年8月25日付）（2022年9月29日付）
- 19) 大阪歯科大学歯学部学業成績評価に関する規程（一部改正）（2022年4月1日付）（2023年1月1日付）
- 20) 学校法人大阪歯科大学給与規程（一部改正）（2022年4月1日付）（2022年11月1日付）
- 21) 教職員定年規程（一部改正）（2022年4月1日付）（2022年11月24日付）
- 22) 学校法人大阪歯科大学育児休業等規程（一部改正）（2022年4月1日付）（2022年12月1日付）
- 23) 大阪歯科大学歯学部における新カリキュラム移行に伴う申し合わせ（施行）（2022年4月1日付）（2023年1月26日付）
- 24) 大阪歯科大学奨学寄附金取扱規程（施行）
- 25) 大阪歯科大学受託研究取扱規程（施行）
- 26) 大阪歯科大学安全保障輸出管理規程（施行）（以上 2022年4月28日付）
- 27) 大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構事業化研究推進センター開発支援等学術指導取扱規程（施行）（2022年4月28日付）（2023年1月26日付）
- 28) 大阪歯科大学バイオセーフティー委員会規程（一部改正）（2022年6月1日付）
- 29) 大阪歯科大学における公的研究費の不正使用防止にかかる基本方針（一部改正）
- 30) 大阪歯科大学における公的研究費の不正防止計画（一部改正）（以上 2022年7月28日付）
- 31) 計量管理規程（一部改正）（2022年8月15日付）
- 32) 大阪歯科大学大学院優秀論文賞に関する申し合わせ（一部改正）
- 33) 大阪歯科大学共同研究取扱規程（施行）（以上 2022年8月25日付）

- 34) 大阪歯科大学動物実験委員会規程（一部改正）
- 35) 大学院学則「優れた研究業績を上げた者」（早期修了者）に関する申し合わせ（一部改正）
(以上 2022年9月29日付)
- 36) 大阪歯科大学歯学部ティーチング・アシスタントに関する規程（一部改正）
- 37) 大阪歯科大学附属病院大学院医員就業規則（一部改正） (以上 2022年10月1日付)
- 38) 学校法人大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構規程（一部改正）
(2022年10月27日付)
- 39) 学校法人大阪歯科大学教員の定員等に関する規程（一部改正）
- 40) 昇格・降格に関する取扱細則（一部改正） (以上 2022年11月1日付)
- 41) 大阪歯科大学教員任用規程（一部改正）
- 42) 教員の昇任資格審査に関する申し合わせ（一部改正）
- 43) 大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構事業化研究推進センター管理運営 規程（一部改正）
- 44) 大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構先進医療研究センター管理運営規程（施行）
- 45) 学校法人大阪歯科大学臨床研究利益相反管理規程（一部改正）
- 46) 学校法人大阪歯科大学臨床研究利益相反ポリシー（一部改正）
- 47) 大阪歯科大学医の倫理委員会規程（一部改正） (以上 2022年11月24日付)
- 48) 教員候補者の新規任用資格審査に関する申し合わせ（一部改正） (2022年12月1日付)
- 49) 歯学部再入学に関する申合せ（施行） (2023年1月1日付)
- 50) 大阪歯科大学受託研究取扱規程（一部改正）
- 51) 大阪歯科大学奨学寄附金取扱規程（一部改正） (以上 2023年1月26日付)
- 52) 学校法人大阪歯科大学理事長・学長補佐に関する規程（施行）
- 53) 公印規程（一部改正） (以上 2023年2月24日付)

第 2 部 財務状況の概要

令和4年度（2022年度）財務状況の概要

1. 決算概要

（1）資金収支計算書

収入項目では、学生生徒等納付金収入、寄付金収入、及び補助金収入が増加を示すとともに、付随事業・収益事業収入が医療収入を中心に前年度比大幅に増加しました。

一方、支出項目では、新学舎建設等の大型設備投資により、施設関係支出を中心に大幅に増加したため、翌年度繰越支払資金は前年度比105,647千円減少し4,013,130千円となりました。

令和4年度 資金収支計算書

（単位：千円）

科 目	令和4年度		令和3年度 決算	令和3年度 決算との差異
	予算	決算		
学生生徒等納付金収入	4,883,540	4,784,947	4,743,400	41,547
手数料収入	44,344	43,892	45,900	△ 2,008
寄付金収入	45,546	60,646	49,964	10,682
補助金収入	523,872	527,578	462,529	65,049
付随事業・収益事業収入	2,570,398	2,836,431	2,622,697	213,734
受取利息・配当金収入	26,484	33,515	46,986	△ 13,471
雑収入	290,773	366,706	311,124	55,582
前受金収入	523,130	535,400	523,286	12,114
その他の収入	9,897,071	9,955,404	1,101,708	8,853,696
資金収入調整金勘定	△ 1,010,687	△ 1,157,145	△ 1,083,400	△ 73,745
前年度繰越支払資金	4,118,777	4,118,777	3,609,927	508,850
収入の部合計	21,913,248	22,106,154	12,434,123	9,672,031
人件費支出	4,466,982	4,521,707	4,415,510	106,197
教育研究経費支出	2,654,092	2,523,261	2,357,429	165,832
管理経費支出	532,797	575,338	434,132	141,206
施設関係支出	2,140,280	2,118,460	185,581	1,932,879
設備関係支出	873,912	879,774	164,524	715,250
資産運用支出	7,382,648	7,451,164	835,068	6,616,096
その他の支出	460,430	564,094	475,284	88,810
資金支出調整勘定	△ 440,823	△ 540,775	△ 552,185	11,410
翌年度繰越支払資金	3,809,184	4,013,130	4,118,777	△ 105,647
支出の部合計	21,913,248	22,106,154	12,434,123	9,672,031

(2) 活動区分資金収支計算書

教育活動資金収支差額は、教育活動資金収入、教育活動資金支出ともに増加した結果、896,175千円の資金増となりました。

一方、施設整備等活動資金収支差額が大型設備投資により7,431,371千円減少しましたが、第3号基本金引当特定資産等からの資金拠出によりその他の活動資金収支差額が6,429,549千円増加したため、支払資金は105,647千円の減少にとどまりました。

令和4年度 活動区分資金収支計算書

(単位：千円)

科 目	令和4年度	令和3年度	差 異
教育活動資金収入計	8,566,807	8,235,616	331,191
学生生徒等納付金収入	4,784,947	4,743,400	41,547
経常費等補助金収入	474,183	462,529	11,654
医療収入	2,769,877	2,540,892	228,985
教育活動資金支出計	7,620,307	7,207,072	413,235
人件費支出	4,521,707	4,415,510	106,197
教育研究経費支出	1,904,432	1,821,320	83,112
医療経費支出	618,829	536,109	82,720
管理経費支出	575,338	434,132	141,206
差引	946,500	1,028,543	△ 82,043
調整勘定等	△ 50,325	67,900	△ 118,225
教育活動資金収支差額	896,175	1,096,443	△ 200,268
施設整備等活動資金収入計	2,379,575	0	2,379,575
施設整備等活動資金支出計	9,770,462	570,225	9,200,237
差引	△ 7,390,887	△ 570,225	△ 6,820,662
調整勘定等	△ 40,484	20,796	△ 61,280
施設整備等活動資金収支差額	△ 7,431,371	△ 549,428	△ 6,881,943
その他の活動資金収入計	7,109,183	578,775	6,530,408
受取利息・配当金収入	33,515	46,986	△ 13,471
その他の活動資金支出計	679,634	616,816	62,818
差引	6,429,549	△ 38,041	6,467,590
調整勘定等	0	△ 123	123
その他の活動資金収支差額	6,429,549	△ 38,164	6,467,713
支払資金の増減額	△ 105,647	508,849	△ 614,496
前年度繰越支払資金	4,118,777	3,609,927	508,850
翌年度繰越支払資金	4,013,130	4,118,777	△ 105,647

(3) 事業活動収支計算書

經常収支差額は、教育活動収支差額が医療収入等の増加により333,416千円の黒字となったことに加え教育活動外収支差額も黒字を確保したため、366,932千円の黒字を計上しました。

令和4年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目	令和4年度		令和3年度 決算	令和3年度 決算との差異
	予算	決算		
教育活動収入計	8,358,473	8,568,637	8,238,925	329,712
学生生徒等納付金	4,883,540	4,784,947	4,743,400	41,547
經常費等補助金	523,872	474,183	462,529	11,654
付随事業収入	2,570,398	2,836,431	2,622,697	213,734
雑収入	290,773	368,460	314,314	54,146
教育活動支出計	8,369,613	8,235,220	7,793,745	441,475
人件費	4,455,919	4,415,666	4,307,201	108,465
教育研究経費	3,298,063	3,152,325	2,961,259	191,066
管理経費	615,630	667,132	524,987	142,145
教育活動収支差額	△ 11,140	333,416	445,179	△ 111,763
教育活動外収入計	26,484	33,515	46,666	△ 13,151
受取利息・配当金	26,484	33,515	46,666	△ 13,151
教育活動外支出計	0	0	0	0
教育活動外収支差額	26,484	33,515	46,666	△ 13,151
經常収支差額	15,343	366,932	491,845	△ 124,913
特別収入計	22,031	74,570	16,397	58,173
特別支出計	0	70,748	444,800	△ 374,052
特別収支差額	22,031	3,822	△ 428,402	432,224
基本金組入前当年度収支差額	△ 19,069	370,755	63,443	307,312
基本金組入額合計	△ 7,431,003	△ 7,135,457	△ 64,735	△ 7,070,722
当年度収支差額	△ 7,450,072	△ 6,764,702	△ 1,292	△ 6,763,410
前年度繰越収支差額	△ 19,312,008	△ 19,312,008	△ 19,634,924	322,916
基本金取崩額	6,300,000	6,300,000	324,208	5,975,792
翌年度繰越収支差額	△ 20,462,080	△ 19,776,710	△ 19,312,008	△ 464,702
事業活動収入計	8,406,988	8,676,724	8,301,989	374,735
事業活動支出計	8,426,057	8,305,968	8,238,546	67,422

(4) 貸借対照表

資産の部は、有形固定資産が新学舎建設等により1,973,287千円増加する一方、特定資産が1,905,920千円、流動資産が20,204千円減少したため、前年度比269,086千円増加しました。

純資産は、前年度比370,755千円増加し54,832,310千円となりました。純資産が負債及び純資産の部合計に占める割合である純資産構成比率は91.8%となりました。

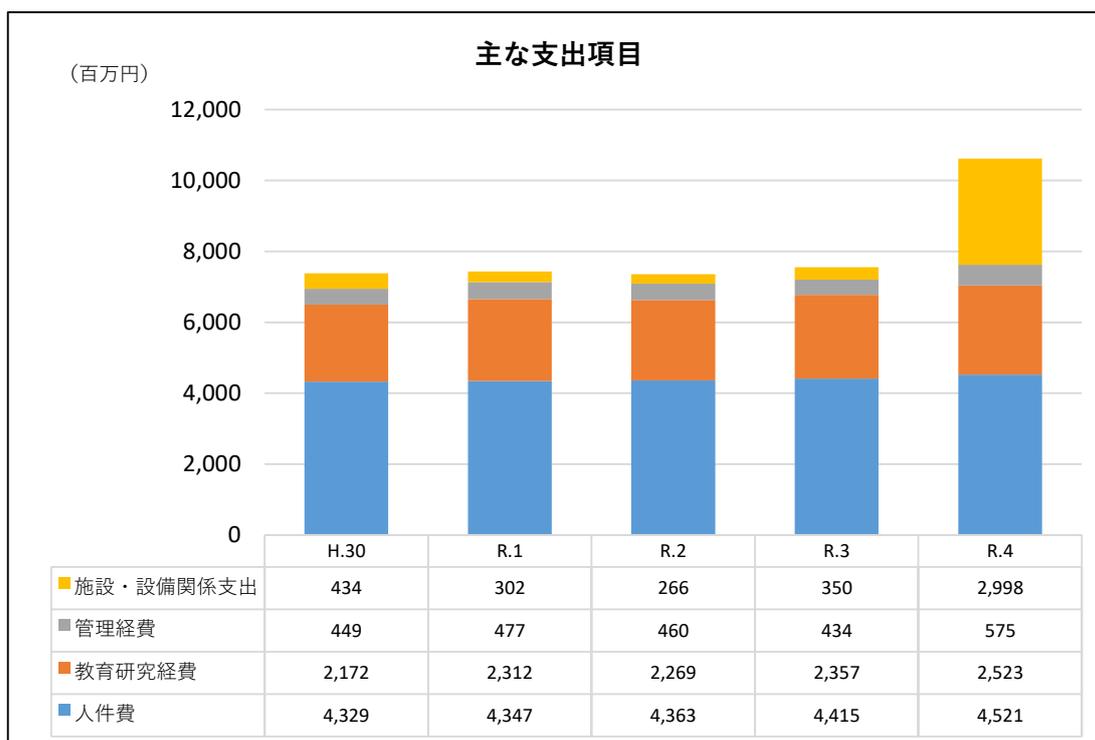
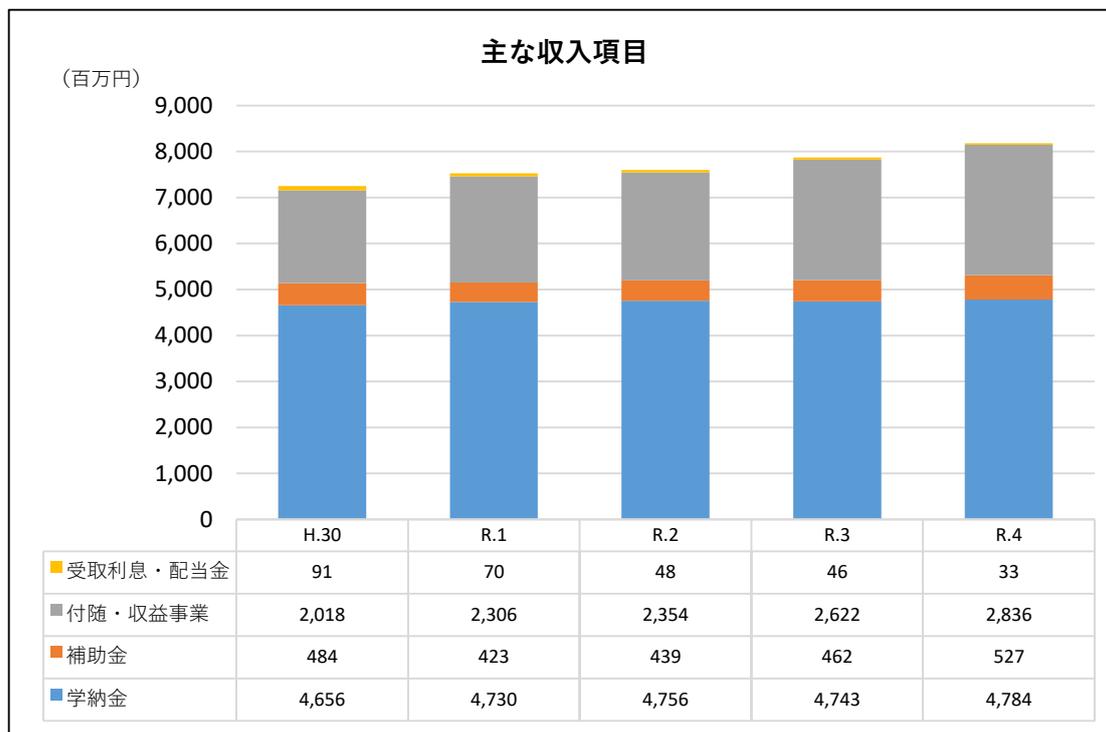
令和4年度末 貸借対照表

(単位：千円)

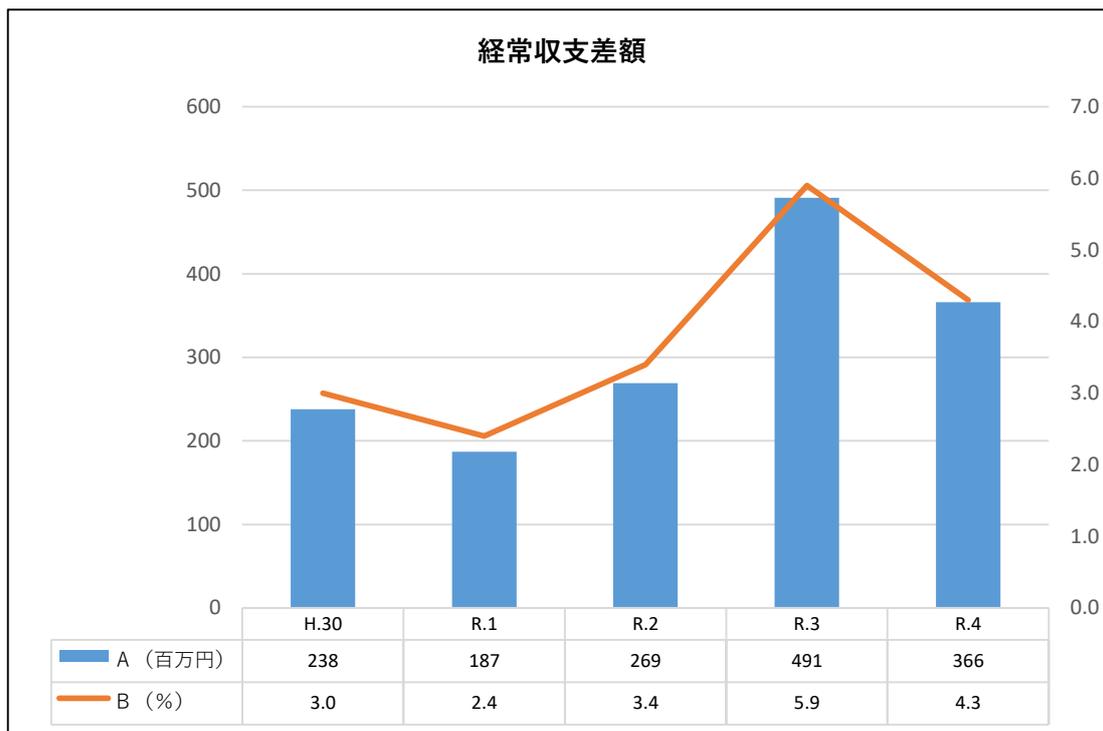
科 目	令和4年度末	令和3年度末	差 異
固定資産	55,076,599	54,787,309	289,290
有形固定資産	18,859,543	16,886,255	1,973,287
土地	5,397,487	5,397,487	0
建物	8,396,013	8,627,139	△ 231,126
教育研究用機器備品	1,430,339	1,103,262	327,076
図書	644,389	687,904	△ 43,514
建設仮勘定	2,129,735	110,605	2,019,130
特定資産	35,648,851	37,554,772	△ 1,905,920
第2号基本金引当特定資産	4,623,820	0	4,623,820
第3号基本金引当特定資産	23,539,000	29,839,000	△ 6,300,000
退職金引当特定資産	3,181,644	3,074,938	106,705
減価償却引当特定資産	4,158,455	3,956,238	202,217
その他の固定資産	568,204	346,281	221,923
流動資産	4,670,575	4,690,779	△ 20,204
現金・預金	4,013,130	4,118,777	△ 105,647
未収入金	635,139	554,934	80,205
資産の部合計	59,747,174	59,478,088	269,086
固定負債	3,409,829	3,524,804	△ 114,974
退職給与引当金	3,409,829	3,523,159	△ 113,329
流動負債	1,505,034	1,491,728	13,305
未払金	533,074	553,799	△ 20,725
前受金	535,400	523,286	12,114
負債の部合計	4,914,864	5,016,533	△ 101,668
基本金	74,609,020	73,773,563	835,457
第1号基本金	45,902,200	43,390,563	2,511,637
第2号基本金	4,623,820	0	4,623,820
第3号基本金	23,539,000	29,839,000	△ 6,300,000
第4号基本金	544,000	544,000	0
繰越収支差額	△ 19,776,710	△ 19,312,008	△ 464,702
純資産の部合計	54,832,310	54,461,555	370,755
負債及び純資産の部合計	59,747,174	59,478,088	269,086

2. 経年比較

①資金収支計算書項目



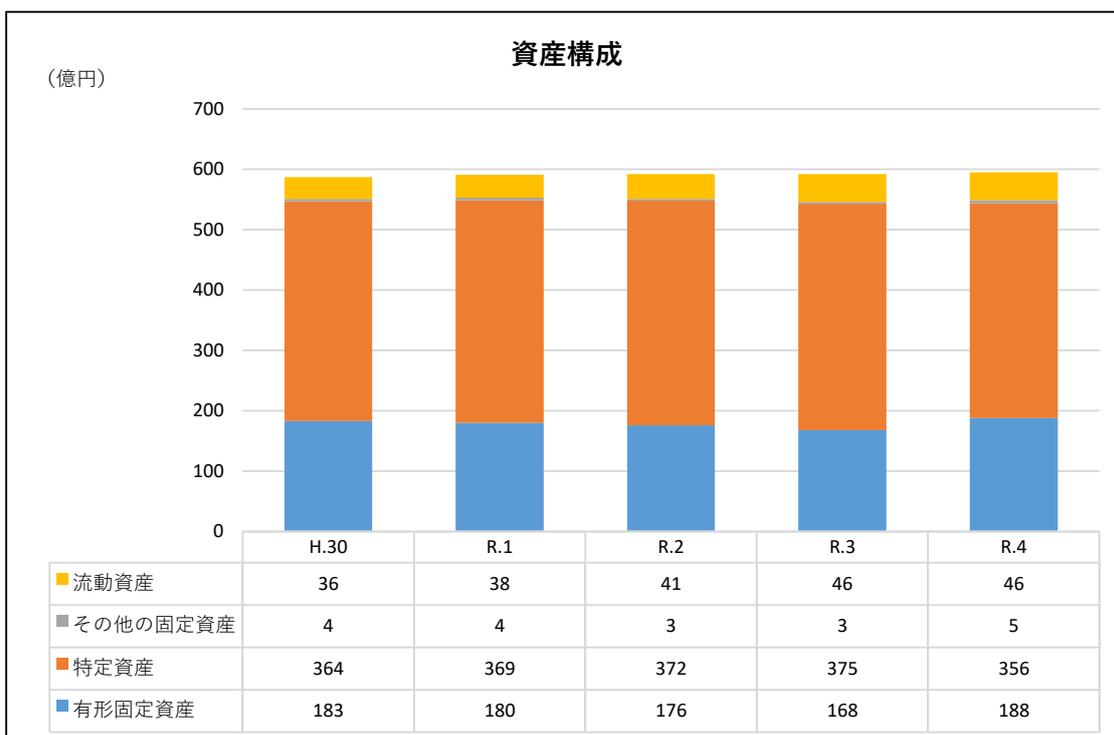
②事業活動収支計算書項目

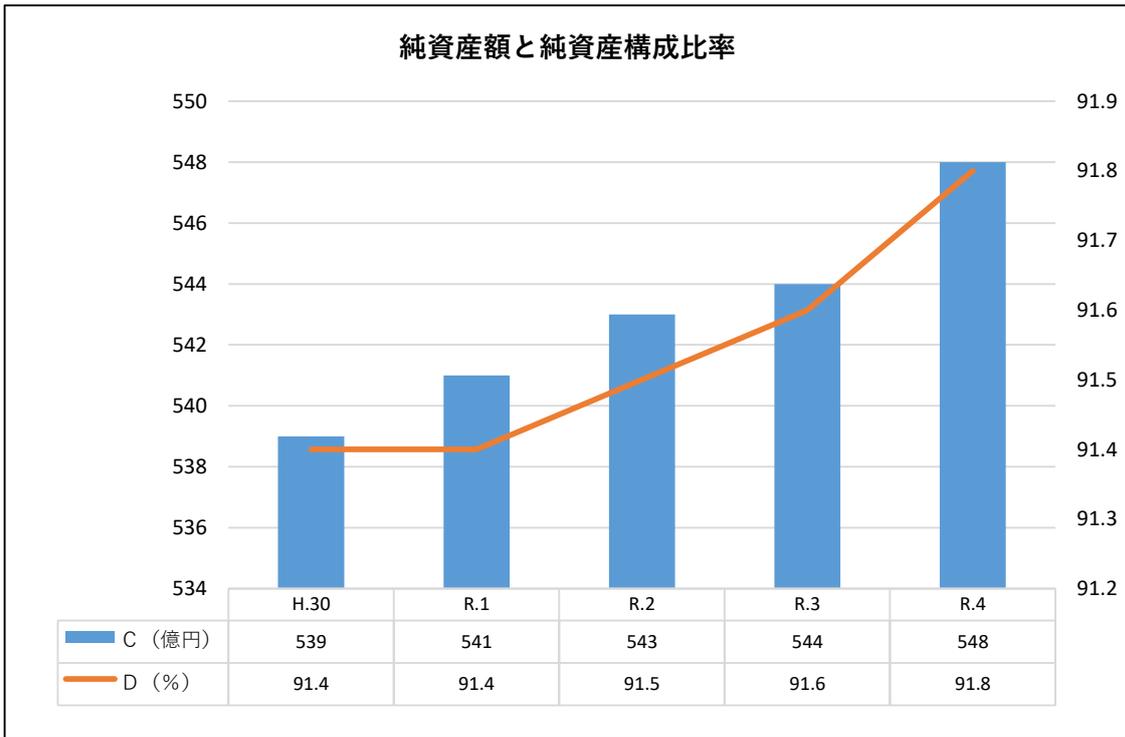
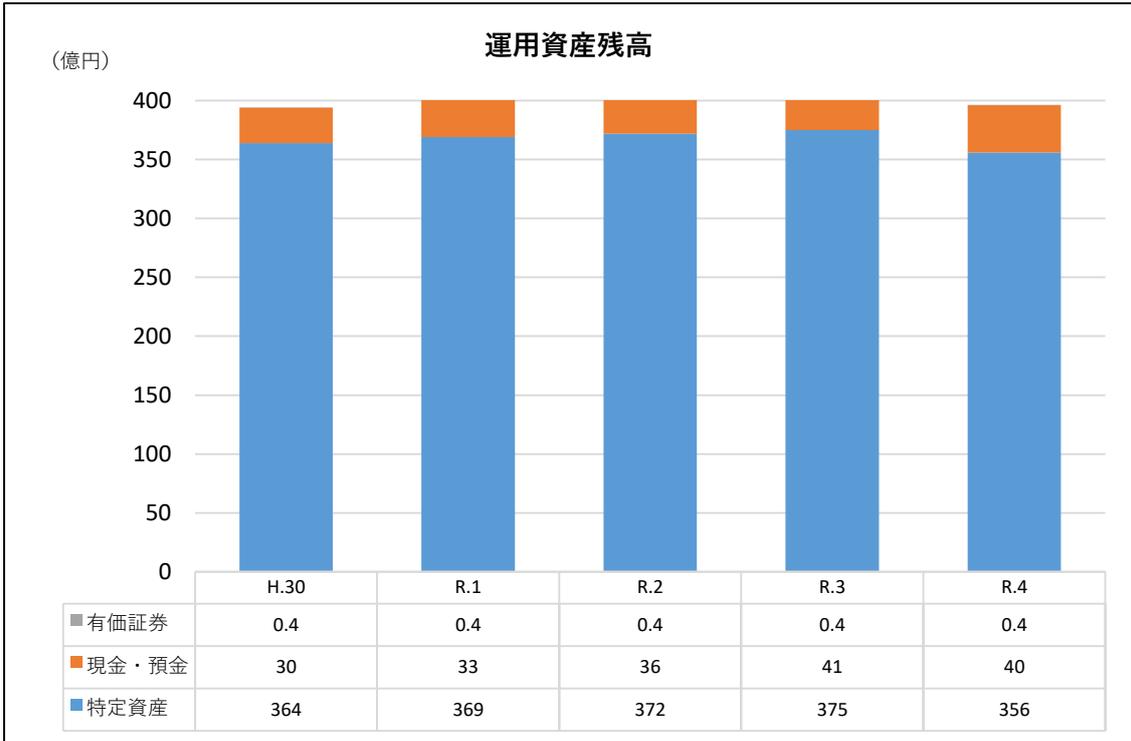


A：経常収支差額

B：経常収支差額比率

③貸借対照表項目





C：純資産額

D：純資産構成比率

3. 財務比率

①主な財務比率

項目	単位	H.30	R.1	R.2	R.3	R.4
固定資産構成比率	%	93.8	93.5	92.9	92.1	92.2
固定比率	%	102.6	102.3	101.6	100.6	100.4
流動比率	%	286.6	279.1	301.8	314.5	310.3
負債比率	%	9.4	9.4	9.3	9.2	9.0
内部留保資産比率	%	58.4	59.4	60.3	61.7	58.2
運用資産余裕比率	年	5.1	5.1	5.2	5.3	4.8
純資産構成比率	%	91.4	91.4	91.5	91.6	91.8
人件費比率	%	54.7	53.6	53.9	52.0	51.3
教育研究経費比率	%	35.5	37.0	36.0	35.7	36.6
管理経費比率	%	6.7	7.0	6.7	6.3	7.8
事業活動収支差額比率	%	2.7	2.4	3.3	0.8	4.3
学生生徒等納付金比率	%	59.4	59.6	59.3	57.2	55.6
補助金比率	%	6.2	5.3	5.5	5.6	6.1
経常収支差額比率	%	3.0	2.4	3.4	5.9	4.3

②主な財務比率の内容説明

項目	内容説明
固定資産構成比率	資産構成のバランスをみるための指標
固定比率	固定資産に対しどの程度純資産が投下されているか評価する指標
流動比率	短期的な支払い能力を評価する指標（200%以上であれば優良）
負債比率	他人資金と自己資金の割合を評価する指標（低いほど良い）
内部留保資産比率	運用資産の蓄積度を評価する指標（高いほど良い）
運用資産余裕比率	経常的支出規模に対し運用資産の蓄積度を表す指標（高いほど良い）
純資産構成比率	財政的な安定度を評価する指標（高いほど良い）
人件費比率	人件費の経常収入に占める割合（低いほど良い）
教育研究経費比率	教育研究経費の対経常収入割合（収支均衡を失しない範囲で高いほど良い）
管理経費比率	管理経費の経常収入に占める割合（低いほど良い）
事業活動収支差額比率	事業活動収入に対する基本金組入前当年度収支差額が占める割合
学生生徒等納付金比率	学納金の計上収入に占める割合（安定的推移が望ましい）
補助金比率	補助金の事業活動収入に占める割合
経常収支差額比率	形状的な収支バランスを表す割合